

# ゴッソー遺跡発掘調査報告書

個人住宅建築に伴う遺跡発掘調査

ゴッソー遺跡発掘調査報告書

2017. 3

岩手県洋野町教育委員会



ゴッソー遺跡 調査区全景とその周辺



1号・2号土器埋設炉、地床炉全景



1号・2号土器埋設炉、地床炉検出



1号・2号土器埋設炉内完掘



1号土器埋設炉トレンチセクション



2号土器埋設炉トレンチセクション

2号竪穴住居跡内1号・2号土器埋設炉、地床炉

# ゴッソー遺跡発掘調査報告書

個人住宅建築に伴う遺跡発掘調査







## 序

洋野町は岩手県の最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、西は軽米町、南は久慈市、東は太平洋に接し、海と高原に囲まれた自然豊かな町です。平成18年1月1日、旧種市町と旧大野村が合併して洋野町が誕生しました。

町内には現在208カ所の遺跡が登録されています。先人の残したこれらの文化遺産を保護し、保存していくことは私たち町民に課せられた重大な責務であります。

本報告書は、個人住宅建築に伴うゴッソー遺跡の埋蔵文化財調査の報告をまとめたものです。この調査の結果が今後この地域の歴史を解明する上で、いささかでもお役に立てれば幸いです。また、本書が関係者はもちろん、広く町民の方々に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護に多少なりとも寄与されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、多大なご助言ご協力をいただきました関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成29年3月

洋野町教育委員会

教育長 向折戸 博 昭

## 例　　言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町第18地割65番地1ほかに所在する、ゴッソー遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、個人住宅建基に伴う事前の緊急発掘調査であり、国庫補助金を導入して調査を行った。
3. 本遺跡の岩手県遺跡台帳の遺跡番号はIF58-0341である。
4. 調査主体者：洋野町教育委員会  
担当者：千田政博
5. 調査指導：岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
6. 資料の分析、鑑定については下記の方々、機関に依頼した。（順不同、敬称略）  
遺跡の地質調査：日本地質学会員 松山力  
石器の石材鑑定：花岡岩研究会（代表：柳沢忠昭）  
自然科学分析：パリノ・サーヴェイ株式会社
7. 依頼原稿の執筆者の氏名は、文頭に記載してある。
8. 第Ⅳ章並びに付録を除き本報告書の執筆・編集・構成は千田政博が担当した。
9. 野外調査、室内整理作業及び本報告書の作成等に際しては、下記の方々からご指導、ご助言、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）  
赤坂朋美、赤堀岱人、市川健夫、伊藤帆、井上雅孝、間間後明、岡本洋、小保内裕之、菅野智則、君島武史、日下和寿、熊谷常正、久保賢治、倉橋直孝、齊藤慶史、佐藤智雄、佐野隆、柴田知仁、嶋影壯憲、高瀬克範、立田理、椿坂恭代、富永勝也、西村広経、野田尚志、秦光次郎、濱田宏、原健美、藤田直行、藤本昌子、松元美由紀、丸山浩治、三澤達也、村木淳、村木敬、森淳、山田悟郎、横山寛剛
10. 試掘調査・野外調査においては、次の方々にご協力いただいた。（五十音順、敬称略）  
安藤セフ、磯谷秀子、上野かづ子、金澤ユウ子、北野澤佳代子、澤口裕子、田高石太郎、館野隆、玉澤ハナエ、長根山一、庭瀬チサ子、野口小枝子、橋本圭太、松倉怜子、山崎ユリ
11. 遺構実測作図、室内整理、報告書作成にあたって、次の方々にご協力いただいた。（五十音順、敬称略）  
鹿島彩子、小坂恵、佐藤美津子、岡口智美、村田千鶴
12. 土層の観察は「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修33版）を用いた。
13. 座標点の測量及び空中写真撮影は、次の機関に委託した。  
座標点の測量：北山測量設計  
空中写真撮影：水沢ラジコン
14. 出土した石器の実測図の作成は、一部を除いて次の機関に委託した。  
株式会社ラング
15. 調査で得られた出土遺物や整理に関わる諸記録等については、洋野町教育委員会で保管、管理している。
16. 引用・参考文献については文末に収めた。

## 目 次

序  
例 言  
目 次  
凡 例

## 本 文

I. 遺跡の概要と調査に至る経緯	
1. 遺跡の概要.....	3
2. 調査に至る経緯.....	3
II. 調査の概要	
1. 野外調査について.....	4
2. 室内整理作業について.....	4
III. 洋野町内の道路.....	5
IV. 遺跡の土層序	
1. 位置と地形・地質の概要.....	16
2. 層序.....	17
3. 巨礫群について.....	18
V. 検出された遺構と遺物	
1. 壁穴住居跡.....	21
2. 土坑跡.....	33
VI. 遺構外出土遺物	
1. 織文土器.....	34
2. 石器.....	34
VII. 調査のまとめ	
1. 遺構と遺構内出土遺物.....	51
2. 遺構外出土遺物.....	53
3. まとめ.....	54
付編	
ゴッソー遺跡の自然科学分析.....	56
写真図版.....	70
報告書抄録.....	93

## 表

第1表 町内の遺跡一覧(1) .....	11	第2表 土器観察表(1) .....	46
第1表 町内の遺跡一覧(2) .....	12	第2表 土器観察表(2) .....	47
第1表 町内の遺跡一覧(3) .....	13	第2表 土器観察表(3) .....	48
第1表 町内の遺跡一覧(4) .....	14	第3表 石器観察表(1) .....	49
第1表 町内の遺跡一覧(5) .....	15	第3表 石器観察表(2) .....	50

## 図 版

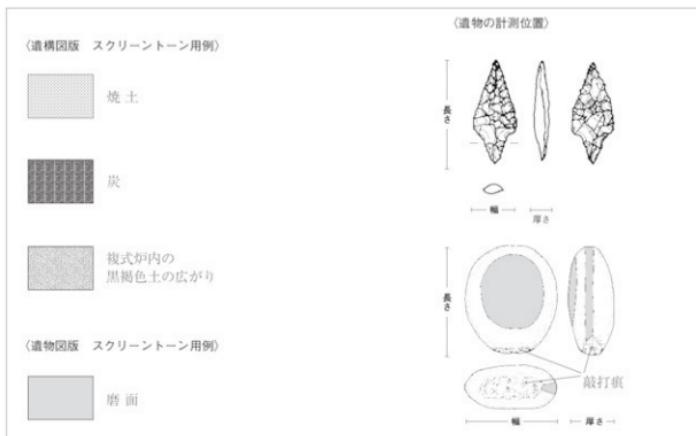
第1図 遺跡位置図 .....	1	第16図 2号堅穴住居跡出土遺物(4) .....	31
第2図 遺跡範囲図 .....	2	第17図 2号堅穴住居跡出土遺物(5) .....	32
第3図 町内の遺跡位置図 .....	10	第18図 土坑 SK1・SK2 SK2出土遺物 .....	33
第4図 各段丘面の被覆火山灰 .....	16	第19図 道構外出土遺物 土器1~18 .....	36
第5図 深掘土層序 .....	17	第20図 道構外出土遺物 土器19~32 .....	37
第6図 調査区範囲図 .....	19	第21図 道構外出土遺物 石器33~38 .....	38
第7図 道構配置図 .....	20	第22図 道構外出土遺物 石器39~45 .....	39
第8図 1号堅穴住居跡(1) .....	22	第23図 道構外出土遺物 石器46~49 .....	40
第9図 1号堅穴住居跡(2) .....	23	第24図 道構外出土遺物 石器50~54 .....	41
第10図 1号堅穴住居跡出土遺物 .....	24	第25図 道構外出土遺物 石器55~58 .....	42
第11図 2号堅穴住居跡(1) .....	26	第26図 道構外出土遺物 石器59~62 .....	43
第12図 2号堅穴住居跡(2) .....	27	第27図 道構外出土遺物 石器63~67 .....	44
第13図 2号堅穴住居跡出土遺物(1) .....	28	第28図 道構外出土遺物 石器68~70 .....	45
第14図 2号堅穴住居跡出土遺物(2) .....	29	第29図 平成6年度・12年度・27年度発掘調査 道構配置図合成 .....	52
第15図 2号堅穴住居跡出土遺物(3) .....	30		

## 写 真 図 版

写真図版 1 遺跡遠景・近景 .....	71	写真図版 13 2号堅穴住居跡出土遺物(1) .....	83
写真図版 2 調査区全景 .....	72	写真図版 14 2号堅穴住居跡出土遺物(2) .....	84
写真図版 3 調査区近景 .....	73	写真図版 15 2号堅穴住居跡出土遺物(3) .....	85
写真図版 4 調査区内土層・深掘土層序 .....	74	写真図版 16 2号堅穴住居跡出土遺物(4) .....	86
写真図版 5 1号堅穴住居跡(1) .....	75	写真図版 17 土坑 SK2出土遺物 .....	
写真図版 6 1号堅穴住居跡(2) .....	76	道構外出土遺物 土器1~16 .....	87
写真図版 7 1号堅穴住居跡(3) .....	77	写真図版 18 道構外出土遺物 土器17~32 .....	88
写真図版 8 1号堅穴住居跡出土遺物 .....	78	写真図版 19 道構外出土遺物 石器33~44 .....	89
写真図版 9 2号堅穴住居跡(1) .....	79	写真図版 20 道構外出土遺物 石器45~53 .....	90
写真図版 10 2号堅穴住居跡(2) .....	80	写真図版 21 道構外出土遺物 石器54~63 .....	91
写真図版 11 2号堅穴住居跡(3) .....	81	写真図版 22 道構外出土遺物 石器64~70 .....	92
写真図版 12 2号堅穴住居跡(4) 土坑 SK1・SK2 .....	82		

## 凡　例

1. 遺構図版の縮尺は、堅穴住居跡 1/30 及び 1/40、土坑 1/60 である。
2. 本書で使用する遺構表示記号は下記による。  
SK：土坑
3. 各遺構内覆土の層位には算用数字を使用した。
4. 本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は、国家座標第 X 系による座標北を示す。
5. 第 1 図 遺跡位置図は、国土地理院発行の 50,000 分の 1 の地形図、第 3 図 町内の遺跡位置図には 25,000 分の 1 の洋野町管内図を複写して使用した。
6. 遺物図版の縮尺は、土器実測図 1/3、土器拓影図 1/3、剥片石器実測図 2/3、礫石器実測図 1/3、礫実測図 1/3 及び 1/6 とした。
7. 株式会社ラングに業務委託し作成した実測図は下記のとおりである。
  - (1) 遺構内出土の石器及び礫：No SH1-12～SH1-14、No SI2-24～SI2-32
  - (2) 遺構外出土の石器：No 33～42、45～54、57～65
8. 遺構、遺物で使用したスクリーントーンの用例、遺物の計測位置は下図に示したとおりである。
9. 写真図版 1 の遺跡近景に掲載した写真は、国土地理院撮影の空中写真（2011 年撮影）を使用した。
10. 遺構写真図版は縮尺不定である。掲載順は遺構図版と同一である。
11. 遺物写真については、土器 1/3、剥片石器 2/3、礫石器 1/3、礫 1/3 及び 1/6 とした。掲載順は遺物図版と同一である。
12. 遺物観察表中の法量について、残存値は（ ）、推定値は＜ ＞で表示した。





第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡範囲図

## I. 遺跡の概要と調査に至る経過

### 1. 遺跡の概要

ゴッソー遺跡はJR八戸線種市駅から南へ約1km、種市海浜公園から西へ約500mの海岸段丘上に位置する。本遺跡は土器片や石器の散布地として知られており、昭和36年に岩手大学の草間俊一教授による2m×5mの2本のトレンチ発掘調査が行われた。発掘調査が行われた地点は、第18地割34番・35番地で、調査では繩文を含んだ縄文時代前期の土器が出土し、貝殻のある縄文時代早期の土器片が1点、弥生土器と思われる燃系を押出した土器片3点、土師器らしい刷毛目のある一小片を表面採集したと報告されている。

本格的な発掘調査は今回の調査までに2回行われている。1回目は平成6年、町道種市漁港線建設に伴う緊急調査で、現在の公益財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより、4月13日から7月29日まで行われた。調査面積は3,456m<sup>2</sup>で、検出された遺構は縄文時代の陥窓穴6基、土坑2基、焼土遺構10基、時期不明の柱穴状小土坑33基であった。出土した遺物は縄文時代の土器（早期・前期・中期・後期）、弥生時代の土器が中コンテナ（41cm×31cm×20cm）で約15箱分、石器・石製品が小コンテナ（41cm×31cm×10cm）で約40箱分、享保年間か元文年間の所産と考えられる寛永通宝が1点出土している。土器は縄文時代前期初頭が主体で、石器は羅石器が主体であった。

2回目は平成12年、同じく岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより、一般県道明戸種市線緊急地方道路整備事業の実施に伴い、4月18日から8月30日まで行われた。調査面積は4,180m<sup>2</sup>で、検出された遺構は縄文時代の堅穴住居跡4棟、土坑17基、柱穴状小土坑28基であった。出土した遺物は縄文時代の土器（前期初頭から晩期）が大コンテナ（41cm×31cm×30cm）で約15箱分、石器が中コンテナ（41cm×31cm×20cm）で約10箱分が出土している。土器は前期が主体で、石器は石核石器・礫石器が主体であった。堅穴住居跡は縄文時代中期末以降が1棟、中期末から後期前半頃のものが1棟、後期のものが2棟である。

### 2. 調査に至る経過

平成26年4月22日、本遺跡において個人住宅建築に伴い文化財保護法第93条第1項の規定により届出に係る進退依頼が洋野町教育委員会へ提出された。その後平成26年5月1日付け教生第3-56号により、岩手県教育委員会教育長より試掘調査を実施するよう通知があり、5月19日付けで試掘調査の依頼書が洋野町教育委員会へ提出された。平成26年6月3日・4日に試掘調査を行った結果、土坑とみられる遺構が検出され、また、縄文時代の土器や石器が多数出土したことから6月5日付け洋種歴第35号の文書により、工事を行う際は事前に発掘調査が必要である旨の通知を届出者に行なった。

平成27年8月17日付けで建築主より発掘調査の依頼書が洋野町教育委員会へ提出され、発掘調査の決裁を得たことから発掘調査に着手することに至り、8月28日付け、洋種歴第98号により文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告を岩手県教育委員会教育長あてへ提出した。

平成27年度の発掘調査の範囲は平成12年度の北側に隣接しており、調査対象面積は1,394m<sup>2</sup>である。遺跡の現状は畠地であるが、元は水田であった。

## II. 調査の概要

### 1. 野外調査について

平成6年度の岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにおいて、一辺40mの大区画が設定され、その一辺を10等分して4mの小区画とし、大区画は東方向へローマ数字、南方向へ大文字のアルファベットが与えられ、小区画は東方向へアラビア数字を0～9まで、南方向へ小文字のアルファベットa～jまで順に与えられたグリッドが設定された。その後平成12年度の調査では、平成6年度の調査地の国道を挟んだ西側に位置することから、大グリッドのローマ数字に-(マイナス)を付けてグリッドが設定された。この2回の発掘調査では日本測地系成果値の座標値が使用されたものであることから、今回の発掘調査においても同グリッドを共有することを検討したものの、同じグリッド設定は困難で、また、遺跡の範囲全体を網羅する新たなグリッド配置も検討したが、平成12年度の調査では、遺構にグリッド名が付してあることもあり、過去の調査にあらたなグリッド名を設定することは混乱するため、今回の発掘調査範囲用のグリッドを設定した。区画原点は第X系 X=44892.000m、Y=74768.000mで、この原点から東方及び北方へ一辺20mの大区画を設定した。区画名は南北方向のXラインにはAからNまでの14文字のアルファベットを順に与え、東西方向のYのラインには0から11までの算用数字を付した。グリッド設定のために設置した基準点の成果は以下のとおりである。

基準点1 X=44916.064 Y=74807.043 H=24.107

基準点2 X=44920.519 Y=74776.760 H=24.114

平成26年度の試掘調査では、グリッド1列より北側は水田開墾時とみられる揮削が八戸火山灰層面當面までみられ、ほぼ擾乱地と考えられることから、重機による表土除去を行った。1列より南側は遺物が多數出土していたことから、スコップにより水田時の層を除去し、その後鏟籠、或いはスコップも併用し、遺構の検出及び出土した遺物の取り上げを行った。遺構の検出は、本報告書第IV章の遺跡の土層序において掲載されている松山力氏が区分した深掘土層序図(17頁第5図)3層～5層で行った。

遺構の精査については、覆土の観察用セクションベルトを4分割または2分割を基本として設定し、土層の堆積状況の確認や記録を行い完掘した。遺構内覆土は上位から下位に算用数字を付し、土層観察の注記は標準土色帖に振り記録した。遺構内土層断面の実測は簡易造り方測量で行い、遺構の平面実測についても1m×1mのメッシュに区切り簡易造り方測量で行った。実測図の縮尺の基準は1/20として作成した。遺構配置図は株式会社CUBICの「遺構実測支援システム(遺構くん)」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の名称は野外調査で検出順に仮称番号を設定し、室内整理作業においてもそのまま番号を用いて登録した。

野外調査での写真撮影は遺構、遺物の検出状況や出土状況に応じて適宜行うこととし、35mmカメラ1台(モノクローム)を主に使用し、補助・記録用としてデジタルカメラを使用した。また、調査区直上の全景写真を空中写真撮影(デジタルカメラ)業務委託として行った。

### 2. 室内整理作業について

室内整理作業は、野外調査終了後、遺物整理作業、報告書編集作業を行った。遺物については、水洗後注記作業を行い、各グリッド、遺構毎の仕分け、接合、復元の順に進めた。土器類は報告書掲載用のものを選別後、登録作業、実測、拓影図作成、トレース、写真撮影を行った。石器類は器種毎に登録し、実測、トレース、写真撮影を行い、遺物図版、遺物写真図版を作成した。例にあるとおり、一部の石器を除き実測図の作成を業務委託

として行った。

野外調査で作成した図面は、原図の標高等の確認、断面図の点検をし、必要に応じて第2原図を作成した。その後トレース作業を行い、遺構図版を作成した。そして遺構図版、遺物図版、遺構・遺物写真図版の図版組を行った。

また、これらの作業と併行し出土遺物の計測、石器の石材鑑定、自然科学分析等を行い、原稿を執筆した。

### III. 洋野町内の遺跡

洋野町内に所在する遺跡は、平成 28 年（2016）4 月現在、岩手県遺跡台帳に 208 遺跡が登録されている。前回刊行した発掘調査報告書（平成 26 年度）では登録が 203 節所であったが、三陸沿岸道路整備に伴う試掘調査により新規発見の遺跡が追加された。

町内遺跡詳細分布調査は、旧種市町が行った平成 16 年度（2004）の角浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢地区）地区的分布調査のみである。町内遺跡詳細分布調査の調査計画では町内を 6 地区に分けて実施する予定であったが、調査はそのうちの 1 地区しか実施されておらずほとんどが未調査である。旧大野村分についても実施しておらず、町内には未発見の遺跡が多く所在するとみられる。なお、旧種市町分については、岩手大学草間俊一教授により昭和 30 年（1955）から昭和 36 年（1961）にかけて遺跡の踏査と発掘調査が行われ、昭和 38 年（1963）に「種市の歴史（原始・中世）種市町諸遺跡の調査報告」として種市町役場から刊行されているものの、本発掘調査の事例が極めて少なく町内の遺跡の様相については不明な部分が多い。

旧石器時代の遺跡の登録はないが、「角川日本地名大辞典 3」によると、旧石器遺物出土遺跡として鉄山遺跡（大谷鉄山か？）、有家遺跡（上のマッカ遺跡か？）が紹介されている。和姫川上流の河岸段丘上に立地する鉄山遺跡から石斧・剥片・敲石が出土し、海岸段丘上に立地する有家遺跡から石斧・剥片が出土し、いずれも高館火山層最上部から発見されたとある。しかし、遺跡の名称は現在登録されているものに該当せず、詳細は不明である。

縄文時代の遺跡数は 154 遺跡を数える。草創期の遺跡はないが、平内 II 遺跡より約 9 キロ離れた青森県三戸郡階上町大字平内にある滝端遺跡からは爪形文土器が出土している。また、階上町に隣接する八戸市南部区黄堀遺跡、洋野町に隣接する軽米町馬場野 II 遺跡でも草創期の土器が出土しているので、町内からも出土する可能性がある。

早期の遺跡として、ゴッソー遺跡（20）、大平遺跡（32）、大宮 II 遺跡（47）、大宮 I 遺跡（48）などがある。大宮遺跡は、昭和 36 年（1961）に草間教授により発掘された遺跡で、A・B・C の 3 地区に分けて調査が行われ報告されている。A・B 遺跡からは貝殻文土器が出土しており、特に B 遺跡からは胴部に貝殻条痕、口唇部に貝殻腹縫文の土器が出土している。草間教授は、岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器であり、発見されたことは多大な成果であると報告している。ゴッソー遺跡では（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下岩文振埋文に略称する）による平成 6 年度（1994）の本発掘調査で、遺構には伴わないが日計式土器、魚骨回転文土器、寺の沢式土器等が出土している。

前期の遺跡として千敷平遺跡（4）、平内 I 遺跡（5）、ゴッソー遺跡（20）、上のマッカ遺跡（43）、藤好沢遺跡（52）などがある。ゴッソー遺跡は早期～晩期の縄文土器が出土しているが、前期初頭の遺物量が多く、特に平成 6 年度（1994）の岩文振埋文による本発掘調査で出土したコンバス文土器や押型文土器は岩手県で初めての出土と考えられる。同遺跡もやはり昭和 36 年（1961）に草間教授により発掘された遺跡で、縄文時代前期の土器を中心とする遺跡である。北ノ沢 I 遺跡（163）などがある。

中期の遺跡として角川目 I 遺跡（3）、千敷平遺跡（4）、上のマッカ遺跡（43）、北ノ沢 I 遺跡（163）などがある。

特に千敷平遺跡は開拓時に石棒が多数出土し、配石・集石の様なものも見られたと伝えられている。

後期の遺跡として、たけの子遺跡（21）、上岡谷遺跡（31）、上のマッカ遺跡（43）、石倉遺跡（56）、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）、西平内Ⅰ遺跡（185）、南川尻遺跡（194）、サンニアⅠ遺跡（195）などがある。西平内Ⅰ遺跡は、平成26年度・平成27年度に三陸沿岸道路建設事業に伴う発掘調査が岩文振理文により行われた。発掘調査の結果、弧状の石の列1基、その外側に60基以上の集石群が検出され、また、後期初頭から前業にかけての堅穴住居跡や掘立柱建物跡、焼土遺構、埋設土器などの他、整地層2枚が確認されている。その後、平成28年度に洋野町教育委員会のハンドボーリング調査により、弧状の石列が直径約30m×26mの環状列石になることが明らかになった。平内Ⅱ遺跡は洋野町教育委員会により、平成11年度から平成25年度の間に延べ6ヵ年発掘調査が行われた。屋外炉、集石、焼土遺構、溝状土坑が検出されており、出土した土器は主に後期前業に位置付けられるものである。上水沢Ⅱ遺跡は平成12年度（2000）に岩文振理文により本発掘調査が行われ、堅穴住居跡13棟、住居状の遺構4基、土坑36基、柱穴状土坑158基、焼土遺構9基、埋設土器遺構1カ所が検出された。堅穴住居跡は縄文時代前期・後期、弥生時代のものが発見されているが、縄文時代後期のものが11棟と最も多い。出土した遺物は縄文土器・弥生土器・石器・土製品・アスファルト塊などが発見されている。

晩期の遺跡として、たけの子遺跡（21）、大平遺跡（32）、ニサクドウ遺跡（58）、戸類家遺跡（61）、田ノ沢遺跡（63）などがある。特にたけの子遺跡は町内で晩期を代表する遺跡である。昭和36年度岩手県遺跡台帳作成調査において、戦争中開墾の際多数の土器が出土し、現在は植林されており包含層は良好で重要な遺跡であるとの報告がある。洋野町立種市歴史民俗資料館収蔵の考古資料の多くはこの遺跡からの出土である。戸類家遺跡は昭和32年（1957）に慶應大学江坂輝彌氏により発掘調査が行われており、土器、石器の他に土偶が出土している。この時の土偶は現在慶應義塾大学考古学研究室に収蔵されている。また、昭和7年（1932）には岩手県史跡名勝天然記念物調査会委員であった小田鳥祿郎氏が同町を訪れており、その時に採集された田の沢遺跡、八木貝塚の出土遺物が岩手県立博物館に収蔵されている。

なお、貝塚遺跡としてホックリ貝塚（33）、八木貝塚（37）、小字内貝塚（40）、黒マッカ貝塚（41）がある。ホックリ貝塚からは岩手県で初めて縄文時代の製塙土器が出土しており、久慈市の大芦Ⅰ遺跡で平成9年（1997）に発見されるまで、製塙土器が発見された県内唯一の遺跡であった。海岸付近に位置する同貝塚は、昭和21年（1949）に行われた造船所の建設工事によりほぼ壊滅したといわれるが、製塙遺跡であった可能性がある。洋野町の故玉沢重作氏により製塙土器が発見され、その後岡山大学名誉教授近藤義郎氏が、岸沢長介氏、伊東信雄氏、江坂輝彌氏から情報を得て昭和35年（1960）同遺跡を調査し、土器の検討を行っている。このほか縄文時代の製塙土器は、ゴッソー遺跡の平成12年度（2000）の岩文振理文による本発掘調査でコンテナ1箱分出土している。洋野町立種市歴史民俗資料館には、たけの子遺跡で採集された縄文時代の製塙土器片が多数収蔵されている。また、平成16年度の種市町内遺跡詳細分布調査において、南平内Ⅰ遺跡（182）より製塙土器片が晩期の縄文土器とともに発見された。同遺跡は現在の汀線まで約150mの距離であるが、時代によっては汀線付近であった可能性もある。被焼した礫は採集できず炉が存在したかは不明で、残存状況も良くないため詳細は不明であるが、製塙を行った遺跡であることも考えられる。現在のところ町内で縄文時代の製塙土器が発見された遺跡は4遺跡を数える。

弥生時代の遺跡として荒巻遺跡（9）、大平遺跡（32）、大宮Ⅱ遺跡（47）、大宮Ⅰ遺跡（48）、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）などがある。上水沢Ⅱ遺跡では弥生時代後期の堅穴住居跡が1棟検出され、土器がコンテナ約1箱分出土している。前述した平内Ⅱ遺跡では、平成25年度の調査で弥生時代前期後業の堅穴住居跡が2棟検出されている。

古墳時代の遺跡については集落遺跡の確認はないが、袖山遺跡（38）において、劍型の石製模造品が表面採集されている。同品もまた故玉沢重作氏により発見されたもので、長さ42cm、最大幅15cm、厚さは最大で4mm、重さは3.6gで色調は暗緑灰色である。全体的に丁寧に研磨されて、頭部には垂下孔とみられる径2mmの穿孔があり、

表面は鏽が表現されている。袖山遺跡は標高約50mの海岸段丘上に立地し、現状は山林などになっていて、主な時代は縄文時代であるが、石製模造品の他には当該期の遺物は発見されていない。昭和28年(1953)に東北大大学伊東信雄教授が東北地方の石製模造品の集成を行い発表した「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」により同品が紹介され知られるようになった。この石製模造品も岩手県で初めて発見されたもので、昭和58年(1983)に一戸町馬場平遺跡から劍形の石製模造品が発見されるまで県内唯一のものであった。

奈良・平安時代の遺跡として、横手遺跡(7)、城内遺跡(11)、大久保遺跡(22)、ニサクドウ遺跡(58)、サンニアⅡ遺跡(205)などがある。サンニアⅡ遺跡では平成26年度の岩手県教育委員会による発掘調査で、8世紀後半から9世紀前半の時期の堅穴住居跡が2棟検出されている。城内遺跡からは8世紀代と考えられる土器類の長胴甕、球胴甕、瓶、土師器等が出土している。また、草間教授の報告書によるとニサクドウ遺跡で土製支脚、土師器等が出土している。

なお、二十一平遺跡(69)では古代(平安時代)の製塙土器が出土している。同遺跡は岩手県と青森県境を流れる二十一川の南側の汀線付近に位置する。海岸整地に伴う重機の掘削により遺跡の存在が明らかになり、平成15年度(2003)に新規登録された。製塙土器片、土製支脚片が多量に散布し、被焼したような円窓もみられた。現在までにコンテナで約5箱分が採取されている。遺跡の立地、発見された遺物の状況から製塙を行った可能性が高いが、保存状況は重機の掘削により一部破壊されていると考えられる。町内には縄文時代や古代の製塙土器を作った遺跡が多く存在することが予想され、今後製塙遺跡の発見や製塙土器の資料の増加が見込まれる。

中世の遺跡として中世城館跡の分布調査が昭和59年(1984)に岩手県教育委員会により行われている。旧種市町には16ヶ所、旧大野村では12ヶ所の計28遺跡が登録されているが、ほとんどが城主などの詳細が不明である。

種市の城内地区には種市氏の居城である種市城が所在する。種市氏は中世～近世初期に当地方を領有していた三戸南部氏(後の盛岡南部氏)の家臣である。『南部藩参考諸家系図』(以後系図)によれば、種市中務(実名不詳)が三戸南部氏24代晴政から種市村、蛇口村(輕米町)ならびに傍村賜り種市村に居住したとある。およそ16世紀半ば頃と推測されるが、それ以前のことは不明である。『奥南旧指録』には、三戸南部氏25代晴繼の股肱の臣として中務が久悲備前らと名を連ねており、三戸南部氏の有力家臣であったとみられる。系図によると、種市中務の長男光徳は同じく中務と称した。光徳は三戸南部氏26代信直(初代盛岡藩主)から種市村ならびに傍村に600石を賜ったとある。天正19年(1591)の九戸政変の乱の際、「聞老道事」によれば信直方に属し、18人の部下と鉄砲三挺、弓三張で参陣している。また、2代盛岡藩主利直の時に起きた慶長5年(1600)の岩崎合戦では、部下18人と参陣している。なお、系図には光徳の妻は根城南部氏(後の遠野南部氏)18代八戸致栄の弟新田政盛の娘であることが記されている。

その後光徳の長男孫三郎が家督を継いだ。「聞老道事」によれば大阪夏の陣に出陣している。光徳と孫三郎父子は、初代盛岡藩主信直、2代盛岡藩主利直父子に仕え活躍した家臣であったが、孫三郎は3代盛岡藩主重直の時、即ありということで禄を没収され、慶安2年(1649)に没している。

光徳の次男吉広は系図によれば、天正15年(1587)に初代盛岡藩主信直から閉伊口村(久慈市)を賜り住んでいたが、天正17年(1589)に蛇口村に替地を賜り、蛇口氏に姓を変えている。

岩手県遺跡台帳には、平時居住していた平城の種市城跡(16)と非常に立てこもったとされる山城の種市城跡(17)が登録されている。平城の種市城はJR八戸線種市駅より西へ約9kmに所在し、平城跡は現在でも馬場屋敷、的場、神楽屋敷など当時の名残と思われる地名が存在する。そこから南西へ約1kmに山城の種市城が位置する。

天正18年(1590)、豊臣秀吉の朱印状により初代盛岡藩主信直が「南部内七都」を安堵されると、八戸・九戸地方一帯は信直が直接支配することとなり、寛永4年(1627)に根城南部氏が伊達氏に対する備えを理由に遠野

へ転封されると盛岡藩の直轄地になった。八戸には八戸城代が配置され、さらに八戸地方には八戸代官、九戸郡には久慈代官を派遣し支配にあたったようである。

寛文4年（1664）9月、3代盛岡藩主重直が跡継ぎを決めないままに死去した。同年11月、幕府は重直の次弟の重信と末弟の直房を呼び、盛岡藩10万石のうち8万石を重信に相続させ、残り2万石を直房に与え、新規に一藩をおこさせる处置を取った。寛文5年（1665）2月、盛岡藩より領地の配分が行われ、八戸を居城とし、三戸郡41ヶ村、九戸郡38ヶ村、志和郡4ヶ村、都合83ヶ村が付与された。八戸藩は、各村の支配のため通制という行政区画を用い、三戸郡には八戸廻・名久井通・長苗代通、九戸郡には軽米通・久慈通、志和郡には志和の行政区を設定し、各通には代官所を配置した。種市は八戸廻、大野は久慈通に属していた。

八戸藩の主な産業は、商業、林業、漁業、製塩業、鉄産業、造船業などがあり、特に製鉄業は原料である砂鉄と燃料の薪炭材が豊富であったため盛んに行われた。製鉄に関する史料は八戸藩の藩庁の日記である目付所日記、勘定所日記、民間の史料では晴山家文書、酒沢家文書、西町屋（石橋）文書などがあり、様相を知ることができる。製鉄の中心地は大野で、鉄山会所として日払所がおかれて、鉄山支配人が詰めて生産方を指揮した。天保9年（1838）には、大野の鉄山として玉川山、金取山、葛柄山、水沢山、大谷山、川井山、滝山の七山があった。晴山家文書の天保8年（1837）「寛政元年より拾書」は鉄山支配人の経緯が記されているが、晴山文史郎から安永7年（1778）に初代晴山吉三郎へ受け継がれ、その後数人の支配人を経て、享和2年（1802）からは飛驒の浜谷（屋）茂八郎が引き継いだ。そして、文政6年（1823）には、鉄山は藩营となり、石橋徳右衛門が支配人に就任して、その下支配人に二代目晴山吉三郎が就いた。さらに天保5年（1834）の百姓一揆後は、軽米の瀧澤円右衛門が支配人を命じられ、天保9年（1838）からは江戸の美濃屋宗（懇）三郎（家臣名金子丈右衛門）へと移った経過が記されている。

近世の遺跡として岩手県遺跡台帳に、製鉄関連の遺跡が17ヶ所（旧種市町分15ヶ所、旧大野村分2ヶ所）登録されている。製鉄関連の遺跡の調査については、岩手県教育委員会の製鉄関連遺跡の詳細分布調査において、旧種市町は5ヶ所の新規発見、旧大野村は35ヶ所の新規発見の遺跡が報告されている。また、元野田村教育長田村栄一郎氏によるたたら遺跡の踏査によると、旧種市町は鉄山路12ヶ所の他、密鉄場跡や鍛冶場跡など15ヶ所、旧大野村は42ヶ所と鍛冶場跡の調査結果報告がある。

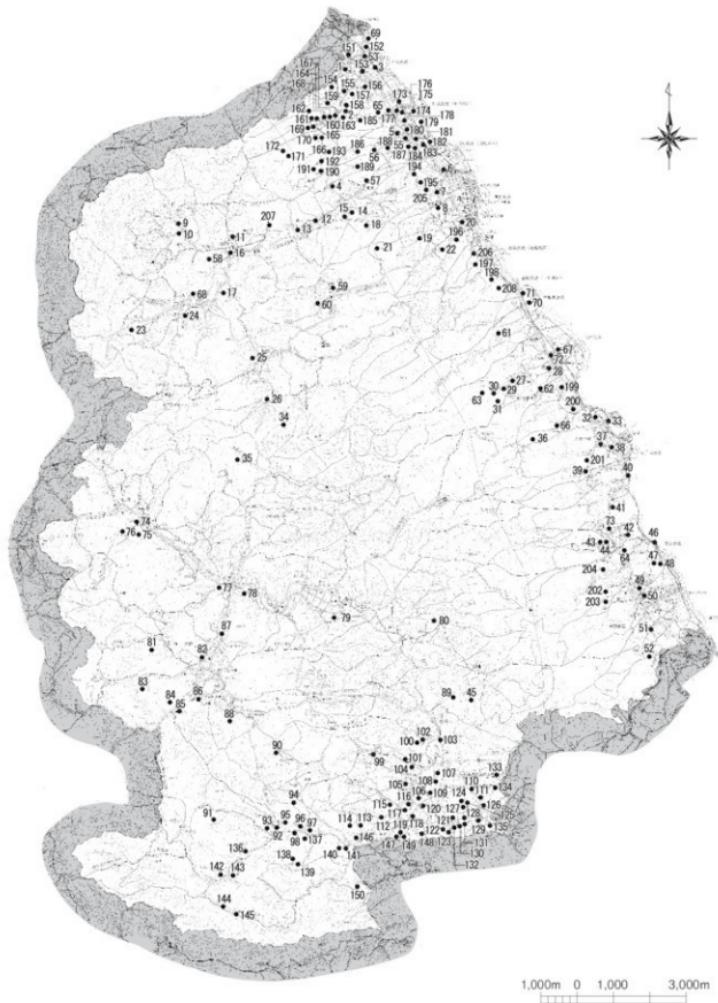
なお、平成16年度に旧種市町教育委員会が行った種市の角浜・伝吉・平内・安沢地区の遺跡詳細分布調査において、鉄滓などを採集した9ヶ所を製鉄関連の遺跡として新規登録したが、時代は不明としたもの、ほとんどが近世の製鉄関連の遺跡であるとみられる。その遺跡詳細分布調査では、旧種市町 168.55km<sup>2</sup>の内8.2%にあたる13.92km<sup>2</sup>の範囲から9ヶ所の新規発見があった他、鉄滓が採集されたとの聞き取り情報があつたものの現地確認できなかった場所が數ヶ所あった。津洋町内では鉄滓などが採集される遺跡が少なくとも60ヶ所以上にのぼり、未発見のものも含めると相当数になるとみられる。今後製鉄関連の詳細な町内全域の分布調査を行い、整理と製鉄関連遺跡分布図の作成、遺跡の登録作業が必要である。

その他、近世の遺跡として町指定史跡の有家台場（46）がある。目付所日記によると、八戸藩では幕府から異国船警戒の命を受けて、寛政3年（1791）に鉄砲堅・目付御用掛を任命し、異国船の警戒に当たらせたようである。寛政5年（1793）の中里覚右衛門書き上げの「堅場」には「大堅」として鮫村、妻生、「小堅」として八太郎浦、湧浦、小船渡浦、有家浦、中野浦の名があげられている。藩の日記などには異国船の出没の記録がいくつかあるが、目付所日記によると文政8年（1825）有家浦の沖合15里に異国船一隻が近寄り、伝馬船二隻を出して上陸の様子をみせたので、弓・鉄砲衆など計31人の藩士が同日に派遣されたことが記されている。その後、安政元年（1854）、八太郎、湧浦、館鼻、塙越、駒、小船渡、有家、久慈通に台場が築かれ、有家にも陣屋堅の役人が任命された。有家台場跡の現況は、八戸線の建設工事などで破壊されているものの、保存状況は概ね良好で、盛土構造の一部が残存している。

製鉄以外の金・銀・銅・鉛鉱山のいわゆる非鉄鉱業について八戸藩の日記類に僅かにみられるが、盛岡藩領に比べ八戸藩領内には大きな金山ではなく、小規模な金山がいくつかかるのみのようである。梅内家文書の慶安2年(1649)の「砂金採取運上金請取状」によると、沢尻、雪畠、小手沢、野そうけ山に金山があったことが記されている。岩手県遺跡台帳には金山跡として、小手野沢金山(14)、ノソウケ金山(23)の2遺跡が登録されている。

#### <引用・参考文献>

- 草間俊一 1963 「種市の歴史（原始－中世）種市町諸遺跡の調査報告」 種市町役場  
角川書店 1985 「角川 日本書名大辞典3 岩手県」  
田村栄一郎 1987 「みちのくの移跡いまいざこ」  
伊東信雄 1963 「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」『歴史第6輯』東北史学会  
(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集  
(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集  
(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 「上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集  
(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2015 「平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡、下向道路、沼袋Ⅱ遺跡、沼袋Ⅲ遺跡、八幡沖遺跡」 ほか調査概報(39遺跡) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集  
岩手県教育委員会 1980 「岩手県中世城館分布調査報告書」 岩手県文化財調査報告書第82集  
岩手県教育委員会 1998 「岩手の貝塚」 岩手県文化財調査報告書第102集  
岩手県教育委員会 2006 「岩手の製鐵遺跡」 岩手県文化財調査報告書第122集  
岩手県教育委員会 2016 「岩手県内遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化財調査報告書第146集  
種市町教育委員会 2004 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 種市町埋蔵文化財調査報告書第1集  
種市町教育委員会 2005 「種市町内遺跡詳細分類調査報告書Ⅰ」 種市町埋蔵文化財調査報告書第2集  
洋野町教育委員会 2013 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集  
洋野町教育委員会 2015 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集  
洋野町 2006 「種市町史第六番史編(上)」 種市町史編さん委員会  
大野村 2006 「大野村誌第二巻史料編1」 大野村誌編さん委員会



第3図 町内の遺跡位置図

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	住所	所在地	時代	種別	出土遺物・遺物	備考
1	IP37-1386	角浜	かののはま	梅市	梅市第42 地割	绳文	散布地	绳文土器	昭和59年度、範例実観(平成23年度)
2	IP37-2306	伝吉1	でんきちいち	梅市	梅市第43 地割	绳文・古代	散布地	绳文土器(早・前・後期)、石器(石刀、石器)、骨器等	昭和59年度、伝吉さんから名前が範例実観(平成23年度)、梅田山古墳群(古墳時代)、石刀、石器、骨器等
3	IP38-1086	角田口1	かくたわらのくち	梅市	梅市第29 地割	绳文	散布地	绳文土器(前・中・後期)、石器(石刀、石器)、骨器等	昭和59年度、角田口さんから名前が範例実観(平成23年度)、石刀、石器、骨器等
4	IP47-2334	千葉平	せんじきひら	梅市	梅市第48 地割	绳文	集落跡	绳文土器(前・中・後期)、石器	昭和59年度、千葉平さんから名前が範例実観(平成23年度)
5	IP48-0170	平内1	ひらないひら	梅市	梅市第34 地割	绳文	散布地	绳文土器(前・中・中期)、石片	昭和59年度、平内さんから名前が範例実観(平成23年度)
6	IP48-1276	角熊	みくみだて	梅市	梅市第28 地割	中世	城跡	照跡(城跡)	昭和59年度調査
7	IP48-2234	桃手	もよこて	梅市	梅市第24 地割	绳文・古代	散布地	绳文土器(晚期)、土師器	範例実観(平成23年度)
8	IP48-2283	ト子の木	とこのき	梅市	梅市第21 地割	绳文	散布地	绳文土器(後・晚期)	範例実観(平成23年度)
9	IP56-0330	荒尾	あらまき	梅市	梅市第59 地割	绳文・弥生	集落跡	绳文土器(中期)、洪生土器	昭和59年度調査
10	IP56-0370	八幡宮原(八幡原町)	はちまんどうだて	梅市	梅市第61 地割	中世	城跡跡	单孔、照跡	昭和59年度調査、八幡原より乳釣実観(平成13年度)
11	IP57-0066	鶴尾	じこりう	梅市	梅市第56 地割	绳文・古代	集落跡	上部即食器、土師器等	昭和59年度調査
12	IP57-0229	瓦屋敷館(船岡館)	あらやしきだて	梅市	梅市第50 地割	中世	城跡跡	照跡(城跡)	昭和59年度調査
13	IP57-0304	御殿原	ごでんのはら	梅市	梅市第50 地割	中世	城跡跡	单孔、照跡、堅穴	昭和59年度調査
14	IP57-0309	小手野沢金山	こてのさわきんざん	梅市	梅市第51 地割	近世	砂丘採取跡	石剣	小手野山金山より名前が範例実観(平成13年度)
15	IP57-0317	楓原	こじわだて	梅市	梅市第51 地割	中世	城跡跡	用数据、探査跡	昭和59年度調査
16	IP57-3023	種市城(平城)	たぬいちょうじょう	梅市	梅市第60 地割	中世	城跡跡	照跡	昭和59年度調査
17	IP57-3033	種市城(山城)	たぬいじょうじょう	梅市	梅市第60 地割	中世	城跡跡	照跡、平場	昭和59年度調査
18	IP58-0034	小手野沢	こてのさわ	梅市	梅市第51 地割	中世	城跡跡	照跡、平場	昭和59年度調査
19	IP58-0169	楓原館	こじわだいじだて	梅市	梅市第21 地割	中世	城跡跡	单孔、照跡	昭和59年度調査
20	IP58-0141	ゴゾー	ごぞー	梅市	梅市第18 地割	绳文	集落跡	绳文土器(後・晚期)、陶器(罐)、石器(石刀、石器)、骨器等	昭和59年度、平成23年度、手造り土器、骨器等
21	IP58-0066	たぬの子	たぬのこ	梅市	梅市第21 地割	绳文	散在地	绳文土器(后・晚期)、骨器	昭和59年度調査
22	IP58-1205	大久保	おおくぼ	梅市	梅市第19 地割	绳文・古代	散布地	绳文土器(前・中・後期)、石器、土器	昭和59年度調査
23	IP66-0156	ノウケ金山	のうけきんざん	梅市	梅市第20 地割	近世	砂丘採取跡	石剣	昭和59年度調査
24	IP66-0200	小手生田(タック)	こてのさうで	梅市	梅市第70 地割	中世	城跡跡	单孔、照跡	昭和59年度調査
25	IP67-1131	和泉原	わいずが	梅市	梅市第71 地割	中世	城跡跡	单孔、照跡、平場	昭和59年度調査
26	IP67-2146	大蔵森山	おおぞりでつざん	梅市	梅市第73 地割	近世	城跡跡	照跡	昭和59年度調査
27	IP69-1094	西の船	にしのふね	梅市	梅市第8 地割	绳文・中世	砂丘地・城跡	绳文土器(後期)、石器、平場	昭和59年度調査、新規実観(平成23年度)
28	IP69-1157	船の船	しんのふね	梅市	梅市第7 地割	中世	城跡跡	单孔、照跡、平場	昭和59年度調査
29	IP69-2013	西の船跡	にしのふねあと	梅市	梅市第7 地割	中世	城跡跡	上空、照跡、平場	昭和59年度調査
30	IP69-2020	西の船の頭	にしのふねのかぶ	梅市	梅市第7 地割	绳文	散在地	绳文土器(後期)、石器、土器	昭和59年度調査
31	IP69-2041	上岡間	かみおかま	梅市	梅市第7 地割	绳文	散布地	绳文土器(後期)	昭和59年度調査
32	IP69-2860	太平	おおひら	梅市	梅市第3 地割	绳文・弥生	集落跡	绳文土器(早・後期)、石器、土器	昭和59年度、新規実観(平成23年度)
33	IP69-2303	ホクリ貝塚	ほくりくわづか	梅市	梅市第2 地割	绳文・古代	貝塚	绳文土器(后・晚期)、カキ、ホクリ、土器	昭和59年度調査
34	IP77-0301	鶴岡鉄山	はそざわでつざん	梅市	梅市第74 地割	近世	製鉄間違	铁器	昭和59年度調査
35	IP77-3027	南高鉄山	なんこうでつざん	梅市	梅市第73 地割	近世	製鉄間違	铁器	昭和59年度調査
36	IP79-0123	小川の河跡山	おがののかけいわざん	梅市	梅市第3 地割	近世	製鉄間違	铁器	昭和59年度調査
37	IP79-0311	八木貝塚	やぎのくわづか	梅市	梅市第1 地割	绳文	貝塚	绳文土器(後期)、鹿角	昭和59年度調査
38	IP79-0373	袖山	そでやま	梅市	梅市第1 地割	绳文・古墳	集落跡	绳文土器(中・後期)、石器、石器(古墳時代)	昭和59年度調査
39	IP79-1245	長坂	ながさか	梅市	梅市内1 地割	绳文	散布地	绳文土器(後期)	昭和59年度調査
40	IP79-1358	小手貝塚	おこないくわづか	梅市	梅市第5 地割	绳文	貝塚	骨付鹿骨、鹿角、ユルタイ、骨器	昭和59年度調査
41	IP79-2344	黒マツ貝塚	くろまつくわづか	梅市	梅市第2 地割	绳文・古代	貝塚	绳文土器(後期)、石器、土器	昭和59年度調査
42	IP89-0329	向日井	むかひのくに	梅市	梅市第3 地割	绳文	集落跡	绳文土器(後期)、石斧	昭和59年度調査
43	IP89-0340	上のツカ	うののまっか	梅市	梅市第5 地割	绳文	集落跡	绳文土器(前・後期)、石器	範例実観(平成23年度)
44	IP89-0323	有家館	うげだて	梅市	梅市第5 地割	中世	城跡跡	单孔、照跡(城跡)	昭和59年度調査、範例実観(平成23年度)
45	IP99-1153	芦毛鉄山	あらもくわざん	梅市	梅市第7 地割	近世	製鉄間違	铁器	昭和59年度調査
46	IG80-0056	有家台場	うげだいば	梅市	梅市第8 地割	近世	砦台跡	上空	昭和59年度調査
47	IG80-2006	大宮1	おおみや1	梅市	梅市第2 地割	绳文・弥生	散布地	绳文土器(早期)、洪生土器	昭和59年度調査
48	IG80-1008	大宮1	おおみや1	梅市	梅市第2 地割	绳文・弥生	集落跡	绳文(早・後期)、石器、土器	昭和59年度調査
49	IG80-1003	長根原	ながねづか	梅市	梅市第2 地割	绳文	散布地	绳文土器	昭和59年度調査
50	IG80-2004	小野原(照原・朝原)	なかののだて	梅市	梅市第4 地割	中世	城跡跡	单孔、照跡(城跡)	昭和59年度調査

第1表 町内の遺跡一覧(1)

51	IH90-0005	鶴寿塚	えぞづか	桜市	中野第11地割	礎文	集落跡	礎文上層	範囲変更(平成23年度)
52	IH90-0005	垂好沢	ふじよしづわ	桜市	中野第7地割	礎文	集落跡	礎文上層(後・中期)、石刀	
53	IH90-1072	アイヌ森	あいのもり	桜市	桜市第39地割	礎文、古代	散布地	礎文上層(後・中期)、礎文・生糞・廃物、石器、土器	前記事例2、浜通南緯から名松、東・北側斜面(1点)、石器、土器
54	久希番	-	-	桜市	-	-	-	-	前記事例2、浜通南緯から名松、東・北側斜面(2点)、石器、土器
55	IH90-0194	平内畠	ひらないさん	桜市	桜市第34地割	礎文	散布地	礎文上層(中期)、石器	前記事例2、範囲変更(平成23年度)
56	IH90-1025	石食	いしきら	桜市	桜市第37地割	礎文、古代	集落跡	礎文上層(後期)、亂石、礎文	前記事例2、範囲変更(平成20年度)
57	IH90-0203	穀削	ひづわり	桜市	桜市第30地割	礎文	散布地	石堆	
58	IH90-1356	ニサクゾウ	にさくぞう	桜市	桜市第62地割	礎文、古代	散布地	礎文上層(地盤)、土堆跡、生糞	礎文上層(地盤)、土堆跡、生糞
59	IH90-2323	高取1	たかとりいち	桜市	桜市第21地割	礎文	散布地	礎文上層	
60	IH90-2279	高取2	たかとりに	桜市	桜市第21地割	礎文	集落跡	礎文上層(中・後期)	
61	IH90-0022	戸懶家	とねけい	桜市	桜市第11地割	礎文	散布地	礎文上層(後期)、土器	
62	IH90-2113	向山	むかいやま	桜市	桜市第6地割	礎文	散布地	礎文上層	
63	IH90-2337	田ノ沢	たのさわ	桜市	桜市第7地割	礎文	散布地	礎文上層(晚期)	
64	IH90-0278	向長根	むかいながね	桜市	桜市第8地割	礎文	散布地	礎文上層	
65	IH90-0037	平内Ⅱ	ひらないに	桜市	桜市第43地割	礎文、生糞	散布地	礎文上層(後期)、生糞	前記事例1・2(平成11・12年度)、23年度生糞調査実施(平成23年度)
66	IH79-1129	大浜	おおはま	桜市	桜市第3地割	礎文	集落跡	礎文上層(1層)	
67	IH90-1109	船	ふな	桜市	桜市第7地割	礎文	集落跡	礎文上層(中期)	
68	IH90-2360	大沢	おおさわ	桜市	桜市第66地割	礎文	散布地	礎文上層	平成13年度新規発見
69	IH90-0098	二十一平	じゅういちたい	桜市	桜市第41地割	古代	散布地	新塗造跡、土器文跡、土堆跡	前記事例1・2(平成13年度新規発見)、範囲変更(平成23年度)
70	IH90-2161	玉川Ⅰ	たまがわいち	桜市	桜市第13地割	礎文	散布地	礎文上層(早期)	
71	IH90-2038	玉川Ⅱ	たまがわに	桜市	桜市第14地割	礎文	散布地	礎文上層(前期)	
72	IH90-1126	馬場	ばば	桜市	桜市第7地割	礎文	散布地	礎文上層	平成16年度新規発見、範囲変更(平成23年度)
73	IH90-0014	八森	はちもり	桜市	桜市第3地割	礎文	散布地	礎文上層	平成16年度新規発見、範囲変更(平成23年度)
74	IH90-0118	向田Ⅱ	むかひに	大野	大野第20地割	礎文	散布地	礎文上層	
75	IH90-0127	向田	むかひだ	大野	大野第23地割	礎文	散布地	礎文上層(後期)、石器	
76	IH90-0114	向田Ⅰ	むかひいち	大野	大野第20地割	礎文	散布地	礎文上層(後期)、石器	
77	IH97-1082	明門川	あらわどり	大野	大野第29地割	中世	城垣跡	平基、土基、路跡、平場	昭和59年度調査
78	IH97-2100	萩の森	はぎのわたり	大野	大野第36地割	近世	製鹽廻道	路跡	
79	IH90-2266	沢山沼(頬農田)	さわやまだて	大野	大野第49地割	中世	城垣跡	路跡、平基	昭和59年度調査
80	IH90-2284	牛込ぼし林館	ごしこぼしへや	大野	大野第55地割	中世	城垣跡	路跡、平場	昭和59年度調査
81	IH90-0272	たでりらづ	たでひりやか	大野	大野第13地割	中世	城垣跡	路跡、平基、平場	昭和59年度調査
82	IH96-0732	長根	ながね	大野	大野第72地割	礎文	散布地	礎文上層(後・中期)、石器	
83	IH96-1280	鶴勇森	えそもりだて	大野	大野第10地割	中世	城垣跡	路跡、平基、平場	昭和59年度調査
84	IH90-2228	横岸沢川	よこぎさわがわ	大野	大野第14地割	礎文	散布地	石器、甕	
85	IH96-2209	横岸沢Ⅰ	よこぎさわわい	大野	大野第5地割	礎文	散布地	甕、石器	
86	IH90-2216	大野原	おおのら	大野	大野第5地割	中世	城垣跡	平場	昭和59年度調査
87	IH97-0022	ひともっこ	ひともっこだ	大野	大野第69地割	中世	城垣跡	平基、路跡、平場、甕穴	昭和59年度調査
88	IH97-0035	金ヶ沢	かながわ	大野	大野第7地割	礎文	散布地	礎文上層(後期)	
89	IH98-1299	阿子木	あこぎだ	大野	阿子木第4地割	中世	城垣跡	平基、路跡、甕穴	昭和59年度調査
90	JH90-0168	高森Ⅱ	たかもりに	大野	大野第57地割	礎文	散布地	礎文上層	
91	JH90-2061	上水沢Ⅰ	みみずさわい	大野	大野第5地割	礎文	散布地	礎文上層	
92	JH90-2188	上水沢Ⅱ	みみずさわに	大野	大野第7地割	礎文、生糞	集落跡	生糞、土器、石器、瓦片、石器、アツカット遺物	前記事例6、平成12年度新規発掘調査
93	JH90-2196	上水沢Ⅲ	みみずさわさん	大野	大野第7地割	礎文	散布地	礎文上層	
94	JH90-2204	高森Ⅲ	たかもりいわ	大野	大野第7地割	礎文	散布地	礎文上層	
95	JH90-2272	上水沢Ⅳ	みみずさわよん	大野	大野第7地割	礎文	散布地	礎文上層	
96	JH90-2273	上水沢V(頬農田)	みみずさわご	大野	大野第7地割	中世	城垣跡	平基	昭和59年度調査
97	JH90-2388	下水沢Ⅰ	しもみずざわい	大野	大野第8地割	礎文	散布地	洞内	
98	JH90-2294	下水沢Ⅱ	しもみずざわろく	大野	大野第9地割	礎文	散布地	礎文上層	
99	JH90-0067	周内	ぶつみない	大野	大野第57地割	礎文	散布地	礎文上層	
100	JH90-0129	日当Ⅰ	ひなたち	大野	大野第57地割	古代	散布地	土器群	
101	JH90-0186	下帝島Ⅰ	しもたいしまい	大野	島原第11地割	礎文	散布地	礎文上層	

第1表 町内の遺跡一覧(2)

102	JP08-0221	日向Ⅱ	ひなたに	大野	河子木第9地割	闇文	散布地	闇文上苔		
103	JP08-0225	河子木	あこぎ	大野	河子木第12地割	闇文	散布地	闇文上苔		
104	JP08-1108	千葉島Ⅲ	しもたいしまに	大野	帶島第11地割	闇文	散布地	闇文上苔		
105	JP08-1156	千葉島Ⅰ	えもたいでいち	大野	帶島第5地割	中古	散布地	平場、削跡	昭和59年度調査	
106	JP08-1199	上島Ⅰ	かみたいしまいち	大野	帶島第8地割	闇文	散布地	闇文上苔		
107	JP08-1225	二ツ屋	ふたつや	大野	河子木第18地割	闇文	散布地	闇文上苔		
108	JP08-1254	千葉島Ⅳ	しもたいしまさん	大野	河子木第18地割	古代	散布地	土跡跡		
109	JP08-1272	千葉島Ⅴ	しもたいしままん	大野	帶島第9地割	闇文	散布地	闇文上苔		
110	JP08-1375	二ノ屋向	ふたのやむかひ	大野	河子木第12地割	闇文	散布地	闇文上苔		
111	JP08-1398	長原森Ⅰ	ちがうづからむいち	大野	河子木第12地割	闇文	散布地	闇文上苔		
112	JP08-2059	長森Ⅲ	かかもりさん	大野	帶島第1地割	闇文	散布地	闇文上苔		
113	JP08-2073	大森Ⅴ	おおののたかみん	大野	帶島第1地割	闇文	散布地	闇文上苔		
114	JP08-3081	大西Ⅴ(鷺舟館)	おおわたりご	大野	帶島第1地割	中古	城郭跡か?	平路、削跡	昭和59年度調査	
115	JP08-2111	鷺舟館	えうだて	大野	帶島第4地割	中古	城郭跡	平路、削跡	昭和59年度調査	
116	JP08-2117	鷺川Ⅰ	せきうちいち	大野	帶島第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
117	JP08-2127	鷺川Ⅱ	せきうちじ	大野	帶島第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
118	JP08-2148	上島島Ⅲ	かみたいしまに	大野	帶島第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
119	JP08-2194	上島島Ⅳ	かみたいしまさん	大野	帶島第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
120	JP08-2211	上島島Ⅴ	かみたいしままよ	大野	帶島第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
121	JP08-2269	赤塚Ⅰ	いやさかいち	大野	赤塚	闇文	散布地	闇文上苔		
122	JP08-2267	赤塚Ⅲ	いやさかさん	大野	赤塚	闇文	散布地	闇文上苔		
123	JP08-2298	赤塚古	いやさかふん	大野	赤塚第3地割	闇文	散布地	闇文上苔		
124	JP08-2301	赤塚Ⅴ	いやさかかご	大野	赤塚第3地割	闇文	散布地	闇文上苔		
125	JP08-2304	赤塚Ⅵ	いやさかかく	大野	赤塚第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
126	JP08-2318	長森森Ⅱ	ちょうさかわもりに	大野	河子木第12地割	闇文	散布地	闇文上苔(後期)、崖		
127	JP08-2322	赤塚Ⅷ	いやさかかな	大野	赤塚	闇文	散布地	闇文上苔		
128	JP08-2333	赤塚瀬	いやさかわらち	大野	赤塚	闇文	散布地	闇文上苔		
129	JP08-2357	赤塚瀬	いやさかわらう	大野	赤塚	闇文	散布地	闇文上苔		
130	JP08-2371	赤塚Ⅹ	いやさかわらう	大野	赤塚	闇文	散布地	闇文上苔		
131	JP08-2373	赤塚瀬	いやさかわらういち	大野	赤塚	闇文	散布地	闇文上苔		
132	JP08-2380	赤塚瀬	いやさかわらうじ	大野	赤塚第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
133	JP09-1022	長森森Ⅲ	ちうづからむいさん	大野	河子木第12地割	闇文	散布地	石耕		
134	JP09-1051	長森森Ⅳ	ちうづからむよん	大野	河子木第12地割	闇文	散布地	闇文上苔		
135	JP09-2071	赤塚Ⅱ	いやさかに	大野	赤塚第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
136	JP17-0140	上沢沢Ⅸ	かみみずさわなな	大野	水沢第3地割	闇文	散布地	闇文上苔(後期)		
137	JP17-0218	下沢沢Ⅸ	しもみずさわに	大野	水沢第9地割	闇文	散布地	闇文上苔		
138	JP17-0296	金間部Ⅰ	かなまいまい	大野	水沢第12地割	古墳	斜面開削	櫻の口門、桃井		
139	JP17-0297	金間部Ⅱ	かなまいまい	大野	水沢第12地割	古墳	散布地	闇文上苔、土耕跡、寛永通		
140	JP17-0337	大森Ⅰ	おおのたかひ	大野	水沢第10地割	闇文	散布地	闇文上苔		
141	JP17-0339	大森Ⅱ	おおわたりに	大野	水沢第10地割	闇文	散布地	闇文上苔		
142	JP17-1022	牛平Ⅰ	おひないいち	大野	水沢第2地割	闇文	散布地	闇文上苔		
143	JP17-1024	牛平Ⅱ	おひないにに	大野	水沢第2地割	闇文	散布地	闇文上苔		
144	JP17-2003	青森組Ⅱ	あおなまはに	大野	水沢第14地割	闇文	散布地	闇文上苔(後期)		
145	JP17-2027	青森組	あおなまは	大野	水沢第13地割	闇文	散布地	闇文上苔、石葬		
146	JP18-0002	大西Ⅲ	おおわたりさん	大野	帶島第2地割	闇文	散布地	闇文上苔		
147	JP18-0103	帶島開拓地Ⅰ	だいじいしまかいだぐ	大野	帶島第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
148	JP18-0106	帶島開拓地Ⅱ	だいじいしまかいだぐ	大野	帶島第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
149	JP18-0116	帶島開拓地Ⅲ	だいじいしまかいだぐ	大野	帶島第7地割	闇文	散布地	闇文上苔		
150	JP18-1052	大田	おおた	大野	水沢第11地割	闇文	散布地	闇文上苔		
151	JP17-1367	熊中山Ⅰ	たいなかやまいち	梅市	梅山第41地割	闇文	散布地	石井	記録Ⅱ、平成23年度新規発見	
152	JP18-1042	熊中山Ⅲ	たいなかやまに	梅市	梅山第41地割	闇文	散布地	闇文上苔、釋迦	記録Ⅱ、平成23年度新規発見	

第1表 町内の遺跡一覧(3)

153	IF37-2245	田ノ郷Ⅰ	たのほないち	桜市	桜市第42地割	碑文	散布地	碑文上部（後期）	別記②、平成23年度新規発見
155	IF37-2236	桜花Ⅰ	さきはなしのち	桜市	桜市第43地割	碑文	散布地	碑文上部	別記②、平成23年度新規発見
156	IF37-2003	桜花Ⅲ	さきはなしに	桜市	桜市第43地割	碑文	散布地	碑文上部（後期）	別記②、平成23年度新規発見
157	IF37-2239	桜花Ⅴ	さきはなさん	桜市	桜市第43地割	碑文	散布地	碑文上部	別記②、平成23年度新規発見
158	IF37-2207	桜花Ⅵ	さきはなよん	桜市	桜市第43地割	碑文	散布地	碑文上部、石斧、敲石、禮器	別記②、平成23年度新規発見
159	IF37-2202	古吉Ⅲ	てんきもに	桜市	桜市第43地割	碑文	散布地	碑文上部（前期）、石器	別記②、平成23年度新規発見
160	IF47-0229	古吉Ⅳ	てんきもさん	桜市	桜市第44地割	碑文	散布地	碑文上部	別記②、平成23年度新規発見
161	IF47-0228	古吉Ⅴ	てんきもよん	桜市	桜市第44地割	不明	駿駿周辺	鉄滓	別記②、平成23年度新規発見
162	IF47-0226	古吉Ⅵ	てんきもご	桜市	桜市第44地割	不明	駿駿周辺	鉄滓	別記②、平成23年度新規発見
163	IF47-0345	北ノ沢Ⅰ	きたのさわいち	桜市	桜市第45地割	碑文	散布地	碑文上部（中期）、石器、削器、石斧、削石、刮片	別記②、平成23年度新規発見 別記②、平成26年度、平成27年度新規発見
164	IF47-0333	北ノ沢Ⅲ	きたのさわに	桜市	桜市第45地割	碑文、古代	散布地	碑文上部、土壤器	別記②、平成23年度新規発見
165	IF47-0556	北ノ沢Ⅳ	きたのさわさん	桜市	桜市第45地割	碑文	散布地	碑文上部	別記②、平成23年度新規発見
166	IF47-0300	北ノ沢Ⅴ	きたのさわよん	桜市	桜市第45地割	碑文、古代	散布地	碑文上部（前期）、土壤器	別記②、平成23年度新規発見
167	IF47-0344	北ノ沢Ⅵ	きたのさわご	桜市	桜市第45地割	不明	駿駿周辺	鉄滓	別記②、平成23年度新規発見
168	IF47-0301	北ノ沢Ⅶ	きたのさわくろ	桜市	桜市第45地割	不明	駿駿周辺	鉄滓	別記②、平成23年度新規発見
169	IF47-0257	北ノ沢Ⅸ	きたのさわなな	桜市	桜市第45地割	不明	駿駿周辺	鉄滓	別記②、平成23年度新規発見
170	IF47-0299	北ノ沢Ⅹ	きたのさわはち	桜市	桜市第45地割	不明	駿駿周辺	鉄滓	別記②、平成23年度新規発見
171	IF47-1260	北ノ沢Ⅺ	きたのさわかう	桜市	桜市第45地割	不明	駿駿周辺	鉄滓	別記②、平成23年度新規発見
172	IF47-1136	北ノ沢X	きたのさわじゅう	桜市	桜市第45地割	不明	駿駿周辺	鉄滓	別記②、平成23年度新規発見
173	IF38-2192	北平Ⅰ	きたひないいな	桜市	桜市第38地割	碑文	散布地	碑文上部、石斧、禮器	別記②、平成23年度新規発見
174	IF48-0127	北平Ⅱ	きたひないこ	桜市	桜市第38地割	碑文、古代	散布地	碑文上部、土壤器	別記②、平成23年度新規発見
175	IF48-0123	北平Ⅲ	きたひらないさん	桜市	桜市第38地割	碑文	散布地	碑文上部	別記②、平成23年度新規発見
176	IF48-0121	北平Ⅳ	きたひらないいん	桜市	桜市第38地割	碑文	散布地	碑文上部（長期）、刮片	別記②、平成23年度新規発見
177	IF48-0110	北平Ⅴ	きたひらないご	桜市	桜市第38地割	碑文、生虫	散布地	碑文上部（後期）、生虫部分の上部	別記②、平成23年度新規発見
178	IF48-0143	北平Ⅵ	きたひらいなく	桜市	桜市第38地割	碑文	散布地	碑文上部、石斧	別記②、平成23年度新規発見
179	IF48-0158	北平Ⅶ	まとひらい	桜市	桜市第36地割	碑文	散布地	碑文上部（早・中期）、石斧	別記②、平成23年度新規発見
180	IF48-0174	平内Ⅰ	まつひらいよん	桜市	桜市第36地割	碑文、古代	散布地	碑文上部（中期）、石斧、削石、土壤器	別記②、平成23年度新規発見
181	IF48-0197	平内Ⅱ	まつひらいご	桜市	桜市第35地割	碑文	散布地	碑文上部（前期）、石斧、禮器	別記②、平成23年度新規発見
182	IF48-1200	平内Ⅲ	みんなひらいいな	桜市	桜市第33地割	碑文	散布地	碑文上部（前期）、製陶炉	別記②、平成23年度新規発見
183	IF48-1119	街内Ⅲ	みんなひらいなに	桜市	桜市第32地割	碑文	散布地	碑文上部、刮片石器	別記②、平成23年度新規発見
184	IF48-1126	街内Ⅳ	みんなひらいさん	桜市	桜市第32地割	碑文	散布地	碑文上部、削石	別記②、平成23年度新規発見
185	IF48-0001	西平内Ⅰ	じしらひないいな	桜市	桜市第37地割	碑文	散布地	碑文上部（前・中期）、石斧、刮片	別記②、平成23年度新規発見 別記②、平成26年度新規発見
186	IF48-1040	西平内Ⅱ	じしらひないこ	桜市	桜市第37地割	碑文	散布地	碑文上部（中期）、最冠	別記②、平成23年度新規発見
187	IF48-1115	東平内Ⅰ	ひがしらひないいな	桜市	桜市第34地割	碑文	散布地	碑文上部、石斧、敲石、禮器、刮片	別記②、平成23年度新規発見
188	IF48-1039	東平内Ⅱ	ひがしらひないに	桜市	桜市第34地割	碑文	散布地	碑文上部	別記②、平成23年度新規発見
189	IF48-1080	東平内Ⅲ	ひがしらひないに	桜市	桜市第34地割	不明	駿駿周辺	鉄滓	別記②、平成23年度新規発見
190	IF47-2290	建沢Ⅰ	のばきわいじ	桜市	桜市第47地割	碑文	散布地	碑文上部（後期）、石斧、石器	別記②、平成23年度新規発見
191	IF47-2288	建沢Ⅱ	のばきわいに	桜市	桜市第47地割	碑文、古代	散布地	碑文上部、石斧、土壤器	別記②、平成23年度新規発見
192	IF47-1260	建沢Ⅲ	のばきわいさん	桜市	桜市第47地割	碑文	散布地	碑文上部（中期）、削器、刮片、石斧、古器	別記②、平成23年度新規発見
193	IF47-1342	建沢Ⅳ	のばきわいよん	桜市	桜市第47地割	碑文	散布地	碑文上部（中期）、削器、刮片、石斧、石器	別記②、平成23年度新規発見
194	IF48-1397	街用Ⅳ	みんなひわい	桜市	桜市第28地割	碑文	散布地	碑文上部、石器	別記②、平成23年度新規発見 別記②、平成26年度新規発見
195	IF48-2128	サンニヤⅠ	さんにいわい	桜市	桜市第25地割	碑文	散布地	碑文上部	別記②、平成23年度新規発見 別記②、平成26年度新規発見
196	IF58-0288	北熊瀬	かみのくま	桜市	桜市第17地割	碑文	散布地	碑文上部、石器	別記②、平成23年度新規発見 平成26年度新規発見
197	IF58-1254	熊瀬Ⅱ	かみのくまはまに	桜市	桜市第15地割	碑文	散布地	碑文上部（後期）、刮片、石斧	別記②、平成23年度新規発見
198	IF58-1299	熊瀬Ⅲ	かみのくまいまい	桜市	桜市第15地割	碑文	散布地	碑文上部、石斧	平成26年度新規発見
199	IF89-1199	組Ⅳ	しゆくのへ	桜市	桜市第5地割	碑文	散布地	碑文上部、石斧	平成25年度新規発見
200	IF89-2273	小田ノ沢	こだのわ	桜市	桜市第3地割	碑文	散布地	石器	平成25年度新規発見
201	IF79-1217	街八木	みんなやぎ	桜市	桜市第1地割	不明	駿駿周辺	刮片、鉄滓	平成25年度新規発見
202	IF89-1383	下向	しもむか	桜市	中野第1地割	碑文	散布地	矯穴	別記②、平成25年度新規発見 別記②、平成26年度新規発見
203	IF89-2333	中野境内	なかのじょうない	桜市	中野第1地割	碑文	散布地	矯穴	平成25年度新規発見

第1表　町内の遺跡一覧(4)

204	IP99-1322	黒坂	くろさか	横市	家原第9地割	圓文	集落跡	聖穴住居跡、圓文土器（中期）	田尻幸多、平成26年度新規発見、平成26年度未発掘調査
205	IP48-2231	サンニヤⅡ	きんにやに	横市	横市第25地割	古代	集落跡	聖穴住居跡、不明、圓文土器、土器群	田尻幸多、平成26年度新規発見、平成26年度、27年度未発掘調査
206	IP58-1333	尚能塚1	みなみかねいかづち	横市	横市第30地割	圓文	集落跡	聖穴住居跡、圓文土器（早、中期）	田尻幸多、平成26年度新規発見、平成26年度、27年度未発掘調査
207	IP57-0714	相野	たの	横市	横市第33地割	古代・近世	散在地	聖穴土器（古代）、鉄洋	平成27年度新規発見
208	IP59-2021	北玉川	きたたまがわ	横市	横市第14地割	圓文	散在地	圓文土器	平成27年度新規発見

備考欄の＜文献＞について、それぞれ次のように略した。

岩手県種市町教育委員会 2004 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩手県種市町埋蔵文化財調査報告書第1集は、「別記※1」

岩手県種市町教育委員会 2005 「種市町内遺跡詳細分布調査報告書！」 岩手県種市町埋蔵文化財調査報告書第2集は、「別記※2」

岩手県洋野町教育委員会 2013 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩手県洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集は、「別記※3」

岩手県洋野町教育委員会 2015 「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩手県洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集は、「別記※4」

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996・2001 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集・第357集は、「別記※5」

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 「上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第399集は、「別記※6」

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2015 「平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡・下向遺跡・沼田Ⅱ遺跡・沼田Ⅲ遺跡・八幡沖遺跡・ほか調査概報（39遺跡）」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集は、「別記※7」

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2016 「平成27年度発掘調査報告書 サンニア遺跡・房の沢Ⅳ遺跡・白石遺跡・ほか調査概報（35遺跡）」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集は、「別記※8」

岩手県教育委員会 2016 「岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度・復興関係）」 岩手県文化財調査報告書第146集は、「別記※9」

第1表 町内の遺跡一覧(5)

## IV. 遺跡の土層序

日本地質学会会員 松山 力

### 1. 位置と地形・地質の概要

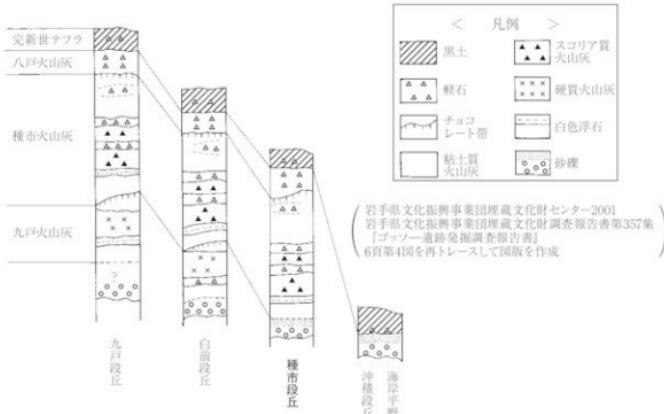
ゴッソー遺跡は洋野町種市庁舎の南南西方約900m付近に拡がっている。調査は北緯 $40^{\circ}23'55''$ ・東経 $141^{\circ}43'05''$ 地点の周囲で実施された。

遺跡の西北西方から西方にかけては、西方11km余に山頂をもつ階上岳（標高740m）山塊が横たわり、西南西方およそ10kmに山頂をもつ久慈平岳（標高706m）がそびえている。両山頂を結ぶ線を久慈市との境界まで伸ばした線の東方地域には、おおむね東北東方に高度を下げる丘陵・段丘群が分布し、東北東方ないし東方に向かって流れ下るいくつもの中小河川によって寸断されている。

丘陵・段丘群は、従来、高位から九戸段丘、白前段丘、種市段丘、低位段丘に区分されてきた。九戸段丘面や白前段丘面は削剥されて平坦地に乏しく、深い谷に刻まれた急傾斜の谷壁から、上に向かって次第に緩傾斜となり、丸みを帯びた尾根となる平頂丘陵地として残されている所が多い。

筆者は種市段丘を2分（2004,2005）し、上位を川尻段丘（2004.高度40～70m,2005.高度30～60m）、下位を種市段丘（2004.高度25～50m,2005.高度20～40m）してきたが、種市段丘面の高度はさらに下がるようである。遺跡は高度20m弱のはば平坦でごく緩やかに起伏して北方の種市段丘に連続する段丘面上にある。

この地域の地質基盤は中生代白亜紀の岩石で、JR八戸線の東側を除けば大部分が花崗閃緑岩類で占められている。東側は、県境から渋谷川河口付近までがデイサイト～流紋岩等の溶岩と火山碎屑物、そこから有家川河口付近までが種市層で占められている。種市層は、おもに礁岩・凝灰岩を伴う海成の砂岩である。



第4図 各段丘面の被覆火山灰

基盤岩の上には、第四紀の礫・砂礫・砂泥層などの段丘堆積物が載り、これを幾枚もの火山灰層や軽石・スコリア層を挟む褐色風化粘土質火山灰（いわゆるローム）を主とする九戸・白前・種市火山灰層や降下相の八戸火山灰層など、より高位段丘ほどより古い火山灰層までが被覆している。八戸火山灰層の上位は腐植土に相当する地表直下の黒色土（クロボク）に漸移している。

第4図は、段丘面の新旧と各火山灰層の被覆関係を示したものである（三浦・丸山・岩文振埋文, 2001, より引用）。

## 2. 層序

今回の調査で発掘された土層は上から下へ、1～6層とその下位の巨礫群に区分された。第5図は南北7mの深掘りトレンチ東側壁の断面図である。以下に記載された各土層の厚さは、同トレンチ断面の、整地・耕作等で深めに掘り下げられたと思われる北部の18mを除く部分の厚さである。

1層は、厚さ10～40cmのやや締まった黒色（10YR2/1）土層で、耕作土にあたる。

2層は、厚さ6～30cmの黒色（10YR2/1～2/2）土層で、ところどころに砂粒大の軽石粒がまばらに散る部分がある。また1カ所に6×10cmの中擦軽石混合土塊（2a層）が見られた。

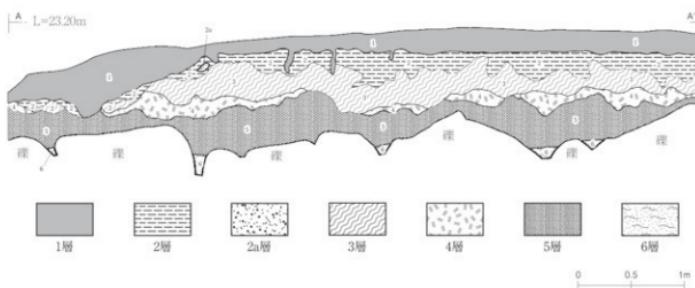
3層は、厚さ5～36cmの黒褐色（10YR2/2～10YR2/3）～暗褐色（10YR3/3）土層で、南部軽石相当と思われる粒径が粗粒砂大～最大6mmの浅黄褐色（10YR8/4～7.5YR8/6）～黄褐色（10YR8/6）軽石粒が、ところによりやや密に、ところによりややまばらに混入している。

4層は、厚さ最大22cmの黒褐色（10YR2/2～2/3）～暗褐色（10YR3/3）土層で、ところどころレンズ状に切れて断続する。ところによって3層中に混入していると同様の軽石粒がまばらに混入している。

5層は、厚さ4～52cmの褐色（7.5YR4/3）土層で、下位の段丘堆積物に載る褐色系色の粘土質風化火山灰に由来する土壤層である。

6層は、下位の巨礫群上部の隙間を埋める厚さ7～20cmの暗褐色（7.5YR3/4）土層で、5層同様の土層である。

5層の下位あるいは6層を挟む巨礫群は、多くは直径が30cm以上で、第5図内に示されたものは30～130cm以上の見かけ直徑である。岩種はすべて花崗閃綠岩である。



第5図 深掘土層序

### 3. 巨礫群について

今回は巨礫群の部位から下方の調査と周辺地域の地形・地質の詳細な調査は行っていないので、遺跡内における下位の土・地層は確認していないが、地形・地質の観点からすれば巨礫層の存在は無視できない。

国土地理院発行の2万5千分の1地形図「種市図幅」によれば、遺跡の南東方650m～1300m付近に拡がる大久保集落の最南西端北側と南西方100m余付近に谷頭を持って北東方に向かう2つの谷地形があり、集落の北東端の先で合し遺跡を超えて東に向かっている。大久保集落の南西部北西縁には谷頭から150m程度続く断崖状の急傾斜地があり、また南東縁のもう一つの谷頭から300m程度続く急傾斜地がある。

一方、今回の発掘では八戸火山灰が確認されなかった。しかし、数十cmの厚さを持つ八戸火山灰層が本遺跡全域で削剥されて痕跡もなく欠如する理由は考えにくいので、未確認ながら、巨礫層の下位に存在するとみるのが妥当のようである。

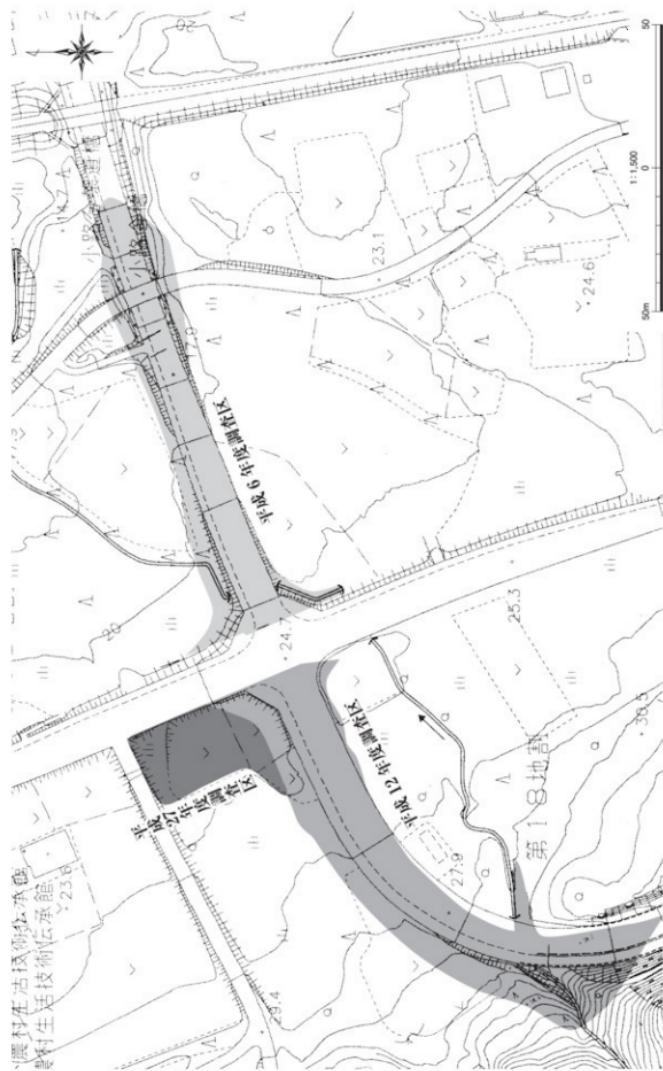
巨礫となっている花崗閃緑岩は、JR八戸線の西側一帯に分布する岩種である。花崗閃緑岩にはおおまかな割目ができて、割れ目に沿って風化しやすく、風化物部分に覆われた巨礫の集合体になりやすい。これに雨が浸透すれば崩れやすくなる岩石である。

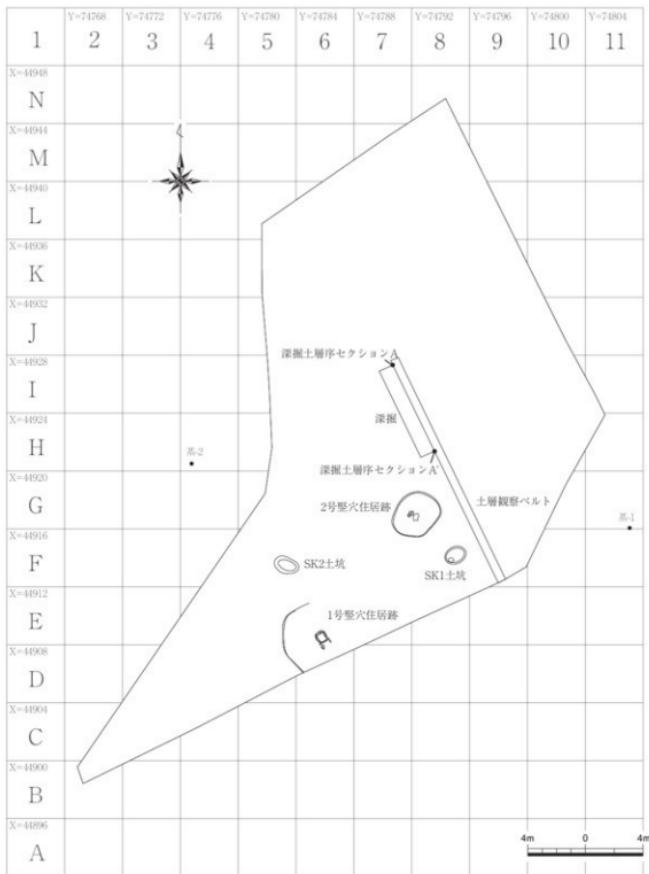
以上を総合すれば、縄文時代の前半期ごろに、大雨か大地震と大雨との複合によって大久保集落付近に発生した崖崩れか地滑りによって生じた土石流が遺跡周辺に流れ下って堆積したとみるのがもっとも妥当のようであるが、八戸火山灰層の存在確認が必要である。

#### 主な引用・参考文献

- 高橋與右衛門・千葉孝雄、1996、遺跡の位置と環境、ゴッソー遺跡発掘報告書、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下「岩文振埋文」と略記）  
三浦一将・丸山浩治、2001、遺跡の位置と環境、ゴッソー遺跡発掘報告書、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集、岩文振埋文  
松山 力、2004、平内Ⅱ遺跡の地学的環境、平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書、種市町埋蔵文化財調査報告書 第1集、  
岩手県種市町教育委員会  
松山 力、2005、調査区の地理的環境、種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ、種市町埋蔵文化財調査報告書 第2集、  
岩手県種市町教育委員会

第6図 調査区範囲図





第7図 遺構配置図

## V. 検出された遺構と遺物

発掘調査の結果、堅穴住居跡2棟、土坑2基が検出された。

### 1. 堅穴住居跡

#### 1号堅穴住居跡（第8～10図、写真図版5～8）

D5及びD6グリットとE5及びE6グリットに跨り位置する。住居跡の半分以上が水田開墾時に削平されており、南東側の一部は調査区外に位置している。精査が可能な範囲は全体のおよそ1/3であった。規模は残存の計測値で北西～南東4.6m×北東～南西3.02m。平面形は推定ではほぼ円形とみられる。地山を床面とする。自然堆積とみられ、9層に分かれる。黒褐色土を主体とし暗褐色土、黒色土が堆積する。壁はほぼ直に立ち上がり、壁の高さは南西壁の残存最大で14cmである。

住居中央付近と想定されるところにはほぼ正方形の「口」の字形の組石炉と「II」の字形に組まれたとみられる石垣接着する複式炉が検出された。全体の規模は北西～南東138cm、南西～北東126cmで、「口」の字形の組石部分は北西～南東78cm、南西～北東76cm、深さは最深で26cmである。炉石は長さ10数cmから最長で45cmの角礫を使用している。炉石として13個確認したが、ほとんどの炉石に被熱によるとみられる赤色化がみられ、中には土色計で25YR3/2灰赤色、5YR3/2暗赤褐色、5YR4/2灰赤色を表示する赤色化が顕著なものもある。炉石として使用された全ての石質を鑑定したが、ほとんどが北上山地産出の花崗閃緑岩であった。火床面は52cm×50cmである。火床直上には炉内で燃焼されたとみられる炭化材が検出された。その炭化材の取り上げ後の火床に深さ10cmの土層観察用のトレーナーを設定した。部分的であるがトレンチ上層に、厚さ1cm～2cmの暗赤褐色土層が観察され、その中には赤褐色土のブロック（焼土）が観察された。「II」の字形の炉石左側は花崗閃緑岩であるが、右側は砂岩を用いた炉石であったとみられ、風化しており検出面で細粒砂が35cm×4cmの範囲で検出された。石の内側は暗灰色に近い黒褐色土の広がりがみられた。

焼失住居であったとみられ、構造材と考えられる炭化材が検出されている。ピット類は検出されなかった。

出土遺物は、縄文時代の土器及び石器が出土している。土器はSII-1が床面直上付近から、SII-2～SII-7は炉内からの出土、SII-8～SII-11は住居跡内覆土中からの出土である。SII-1は石組炉の南西38cmのところで出土した深鉢で、縦半分が残存していたものである。器高は36.5cm、口径は復元推定値で21.7cm、底径は復元推定値で11.9cmである。胴部中央に最大径を持つ深鉢形で、外面はLR綴位の地文のみである。内外面ともに炭化微粒物の付着がみられる。頸部の括れや最大径の特徴から大木10式併行の土器とみられる。SII-2～SII-11も地文のみの深鉢の繩文土器片である。

石器は磨石が3点出土している（SII-12、SII-13、SII-14）。3点とも梢円形の縁の全面が磨かれている。

1号竪穴住居跡



A-A'・B-B'

- |                 |     |         |      |                            |               |
|-----------------|-----|---------|------|----------------------------|---------------|
| 1 IOYR3-2 黒褐色土  | 粘性中 | 緑より緑めで黒 | 草根入る | 10YR6-6・6.8明黄褐色土細小・小粒10%入る | 風化物極少・小粒2%入る  |
| 2 IOYR3-3 黒褐色土  | 粘性中 | 緑より緑めで黒 | 草根入る | 10YR6-6・6.8明黄褐色土細小・中粒20%入る | 風化物極少・小粒2%入る  |
| 3 7.3YR3-2 黒褐色土 | 粘性弱 | 緑より緑めで黒 | 草根入る | 10YR6-6・6.8明黄褐色土細小・中粒15%入る | 風化物極少・小粒2%入る  |
| 4 IOYR3-1 黒褐色土  | 粘性強 | 緑より緑めで黒 | 草根入る | 10YR6-6・6.8明黄褐色土細小・中粒25%入る | 風化物極少・小粒2%入る  |
| 5 IOYR3-4 黒褐色土  | 粘性強 | 緑より緑めで黒 | 草根入る | 10YR6-6・6.8明黄褐色土細小・中粒20%入る | 風化物極少・小粒10%入る |
| 6 IOYR2-2 黒褐色土  | 粘性強 | 緑より緑めで黒 | 草根入る | 10YR6-6・6.8明黄褐色土細小・中粒20%入る | 風化物極少・小粒2%入る  |
| 7 IOYR2-1 黒色土   | 粘性強 | 緑より緑めで黒 | 草根入る | 10YR6-6・6.8明黄褐色土細小10%入る    | 風化物極少・小粒5%入る  |
| 8 IOYR2-1 黒色土   | 粘性強 | 緑より緑めで黒 | 草根入る | 10YR6-6・6.8明黄褐色土細小10%入る    | 風化物極少・小粒5%入る  |
| 9 IOYR3-1 黒褐色土  | 粘性強 | 緑より緑めで黒 | 草根入る | 10YR6-6 明黄褐色土細小2%入る        |               |

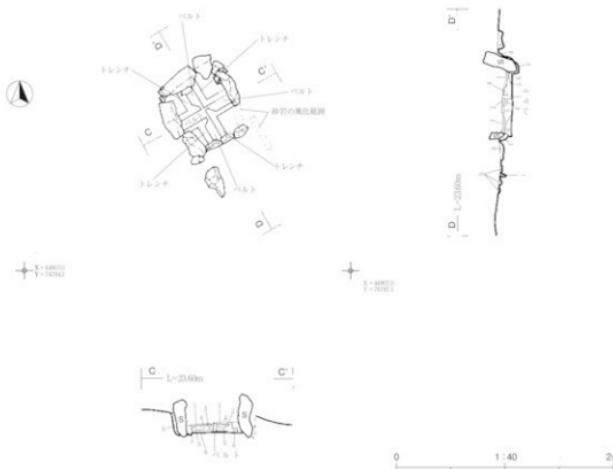
第8図 1号竪穴住居跡(1)

**B-B'**

- a 10YR3/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR6/6・6・8 明黄褐色土細小・小粒5%入る  
 b 10YR2/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR6/6・6・8 明黄褐色土細小・小粒5%入る  
 c 10YR3/1 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR6/6 明黄褐色土細小・小粒5%入る  
 d 10YR3/6 黄褐色色鉛錫 粘性固 緩まり始めで變 砂岩の風化

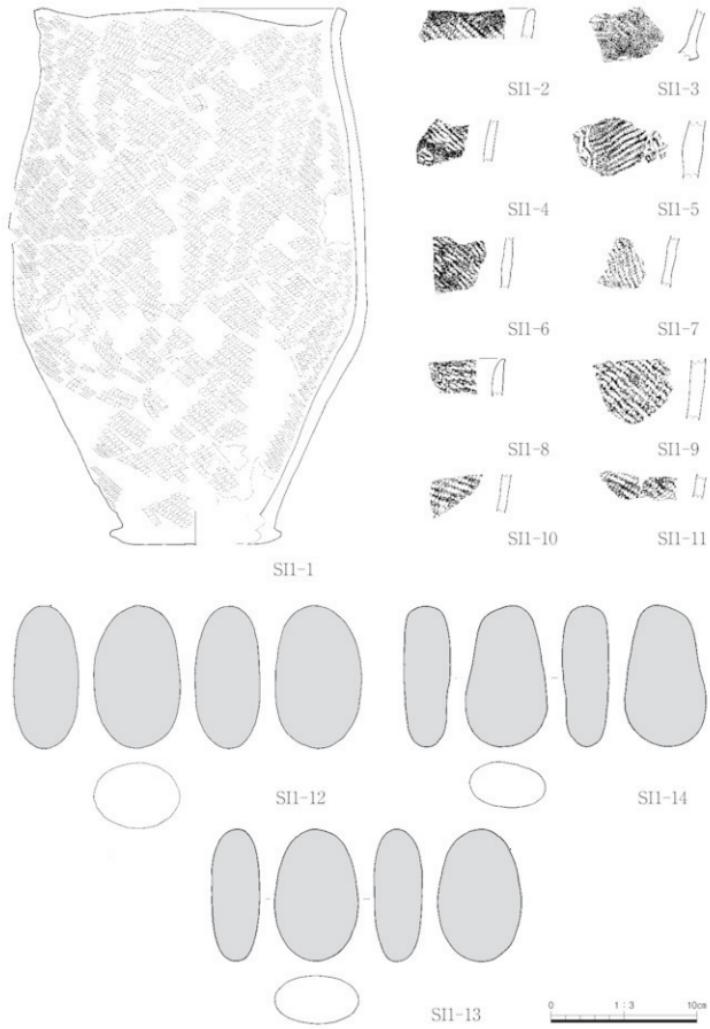
**A-A'**

- e 10YR5/4 ない黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 廃棄物細小～中粒2%入る 10YR6/6・6・8 明黄褐色土細小・小粒7%入る  
 f 10YR3/3 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 25YR8/8 黄褐色土細小・中粒2%入る 草根入る 10YR6/6・6・8 明黄褐色土細小・小粒7%入る  
 g 10YR3/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR6/6・6・8 明黄褐色土細小・小粒7%入る  
 h 10YR3/1 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR6/6・6・8 明黄褐色土細小・小粒7%入る  
 i 10YR3/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 砂岩の風化

**炉**+148000  
+148001  
+148002  
+148003**C-C'-D-D'**

- 1 25YR2/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR6/6・6・8 明黄褐色土細小・小粒3%～5%間に広がる  
 2 25YR4/6 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變  
 3 25YR3/8 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR6/6 黄褐色土細小・小粒10%入る  
 4 25YR3/6 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR6/6 黄褐色土細小・小粒10%入る  
 5 25YR2/3 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR8/8 黄褐色土細小・小粒3%入る  
 6 10YR3/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る  
 a 10YR3/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 10YR6/6・8・9 黄褐色土細小・小粒15%入る  
 b 10YR2/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 10YR6/6・8・9 黄褐色土細小・小粒10%入る  
 c 10YR2/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 10YR6/7 黄褐色土・小粒2%入る  
 d 10YR2/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始 10YR8/6 黄褐色土細小2%入る  
 e 10YR2/2 黄褐色土、粘性固 緩まり始  
 f 10YR2/1 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變 草根入る 10YR8/6 黄褐色土細小1%入る  
 g 10YR3/1 黄褐色土、粘性固 緩まり始めで變  
 h 10YR3/1 黑色土、粘性固 緩まり始めで變 10YR8/6 黄褐色土細小・小粒5%入る

**第9図 1号竪穴住居跡(2)**



第10図 1号竪穴住居跡出土遺物

## 2号竪穴住居跡（第11～17図、写真図版9～16）

F7及びF8グリットとG7及びG8グリットに跨り位置する。同グリット付近は、スコップによる水田・耕作土層を除去した後、動塵及び一部スコップによる遺物取り上げと遺構検出を行っていたが、SI2-5の深鉢形の繩文土器が潰れた状態で検出され、同じく住居跡とみられるプランが確認された。また、プラン検出時には、中央付近に長さ50.1cm、幅41.84cm、厚さ9.16cm、重量23.6kgの扁平な花崗閃緑岩の礫（SI2-32）も同時に検出されている。その礫は土器埋設炉と地床炉の上、正確には地床炉側の直上付近に位置している。

規模は北東～南西3.39m×北西～南東2.74m、平面形は楕円形である。地山を床面とする。自然堆積とみられ、5層に分かれる。黒褐色土を主体とし暗褐色土が堆積する。壁は外傾して立ち上がり、壁の高さは北東壁での残存最大16cmである。

住居跡中央に土器埋設炉と地床炉が検出された。土器埋設炉は1号土器埋設炉の南西方向に2号土器埋設炉が並んだ状態で検出された。1号土器埋設炉は、底部がない口縁部から胴部のSI2-1の深鉢形土器を埋設した中に、同じく底部がない胴部だけのSI2-2の深鉢形土器が埋設され、その中にSI2-3の口縁部が欠損した口縁部直下から底部にかけての深鉢形土器が三重の状態で検出された。SI2-3の中の堆積土は3層（a～c）に分かれる。a層は暗褐色土、b層は黒褐色土、c層は10YR17/1の濃い黒色土である。2号土器埋設炉は、口縁部及び底部がない胴部だけのSI2-4の深鉢形土器を埋設した状態で検出された。出土遺物については後述するが、板状の礫を炉底としており、その上には磨石と自然礫、さらにその上からは石斧が出土した。

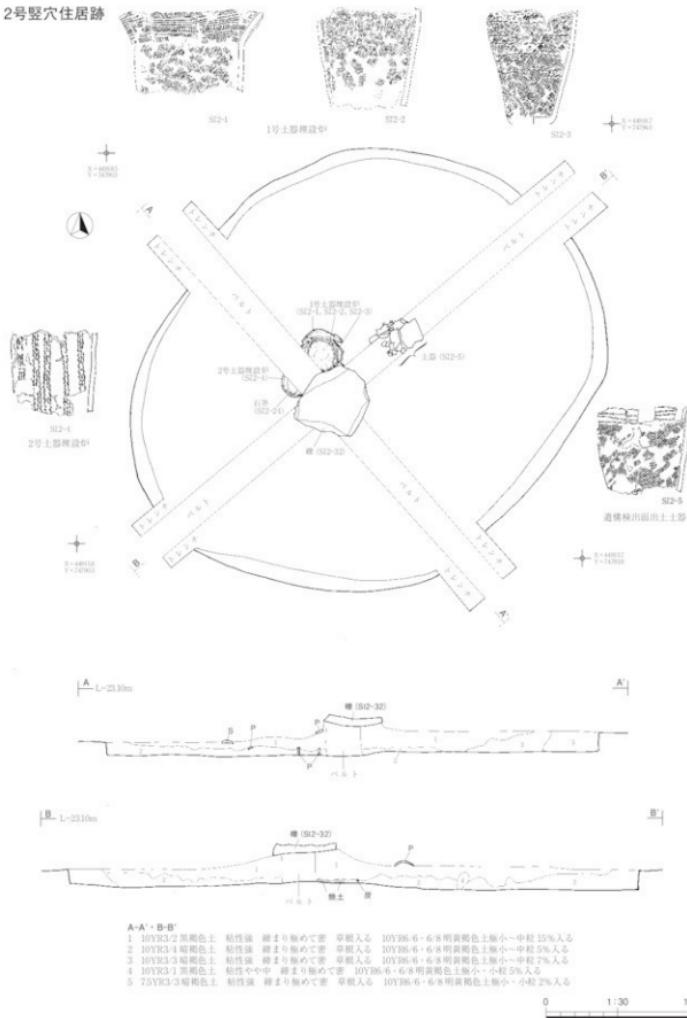
地床炉は土器埋設炉の南東から南側にかけて検出された。焼土の広がりは55cm×40cmで、焼土の厚さは実測値の最大で1cmである。焼土面の一部から炭化材も検出されている。

住居跡内からはピット類は検出されなかった。

出土遺物は繩文時代の土器、石器がある。SI2-1～SI2-3は1号土器埋設炉の深鉢形土器である。SI2-1は口縁部が外傾する深鉢で、縁帶の貼り付けがあり、LRの繩文側面押圧がみられる。SI2-3はRL・LRの横位の回転で羽状になっており、横位に $\ell$ 結節回転文がみられる。SI2-4は2号土器埋設炉の深鉢形土器である。無地文で、rの結節回転文が凝位に3条の単位で施文されている。SI2-5は住居跡のプラン確認時に出土したもので、口縁部直下には繩文原体庄痕が3条みられる。SI2-1とSI2-2は同一個体とみられ、縁帶の貼り付けや繩文の側面押圧の状況から円筒上層a式に比定される。SI2-6～SI2-9は同一個体の口縁部とみられ、LRの繩文側面押圧がみられる。また、SI2-6～SI2-14は1号土器埋設炉の内外から出土したものであるが、同一個体の破片とみられ、特にSI2-8・SI2-9の縁帶の貼り付けの状況やSI2-6～SI2-10の繩文側面押圧の状況から円筒上層a式に比定される。

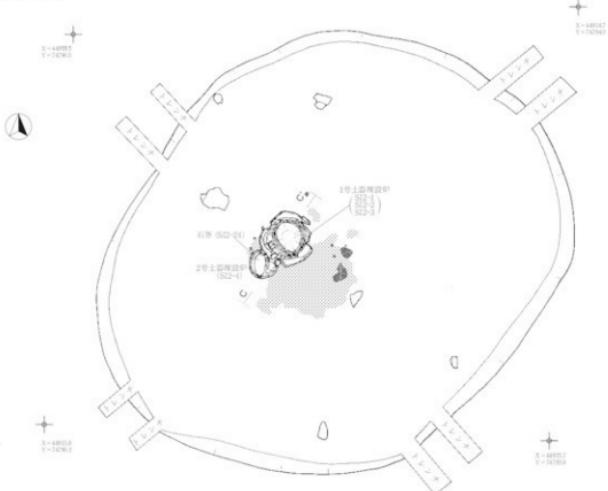
石器は1号土器埋設炉の検出面から礫器（SI2-28）が出土し、2号土器埋設炉の中から石斧（SI2-24）、磨石（SI2-25）が出土し、住居内覆土から磨石（SI2-29）、敲磨石（SI2-30・SI2-31）が2点出土した。礫器（SI2-28）は裏面が自然面で占める大型の剥片を素材とした両面が加工されている。前述の2号土器埋設炉内の石斧（SI2-24）は、扁平な円錐で長軸の両端部を加工して刃部としており、両側の側縁には磨り痕跡がみられる。石斧の下からは磨石（SI2-25）が出土した。磨石は長円形の扁平な礫の全面が磨かれている。また、石斧と磨石ともに灰白色の付着物がみられる。磨石の隣から出土した礫（SI2-26）とその下から出土した床の面上に置かれていた板状の礫（SI2-27）も図化した。SI2-26は花崗閃緑岩で被熱による赤色化がみられ、SI2-27も花崗閃緑岩の礫で、加工の痕跡及び使用の痕跡はみられないが、被熱による赤色化が顕著である。磨石（SI2-29）は扁平な円錐の表裏面が磨かれている。SI2-30の敲磨石は全体を研削した円錐の端部に敲打痕がみられる。SI2-31の敲磨石も半分の面が剥離で欠損しているが、SI2-30と同様である。なお、プラン検出時と同時に検出された礫（SI2-32）も図化した。加工の痕跡及び使用の痕跡はみられなかつたが、一部に赤褐色の付着物がみられる。

2号竪穴住居跡

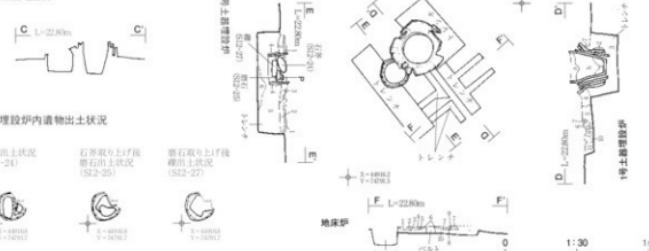


第11図 2号竪穴住居跡(1)

2号竪穴住居跡



1号・2号土器埋設炉

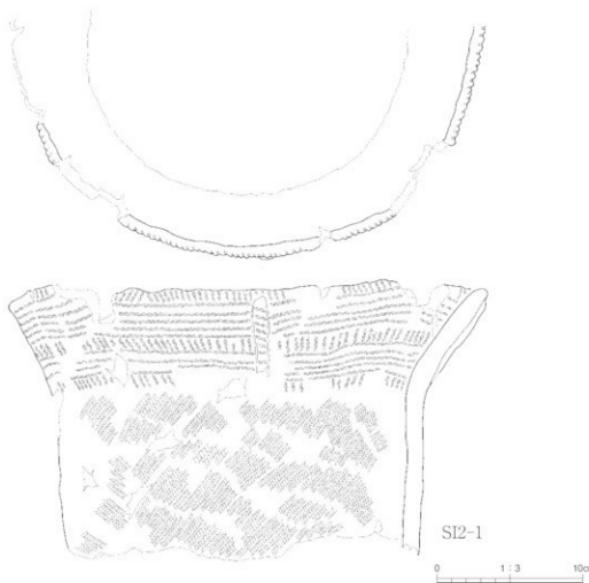


2号土器埋設炉内遺物出土状況



第12図 2号竪穴住居跡(2)

- | 1号系管理親 D-D'        |   |
|--------------------|---|
| 10Y03-3 黄褐色土飼      | 耐性弱 繁まり難いで葉 草原入る 10Y03-6 黄褐色土飼 小粒 10%入る                                 |
| 10Y02-3 黑褐色土飼      | 耐性中 中 繁り難いで葉 草原入る 10Y02-6 黄褐色土飼 小粒 25%入る                                |
| 2.75Y03-3 黄褐色土飼    | 耐性強 繁まり難いで葉 草原入る 10T36-6 黄褐色土飼 小粒 ~10% 3%入る                             |
| 3.75Y03-3 黄褐色土飼    | 耐性強 繁り難いで葉  |
| 4.75Y02-3 黄褐色土飼    | 耐性強 繁り難いで葉 草原入る 腐化物小粒 2%入る 2.5TBL-6 黄褐色土飼 小粒 1%入る 10Y38-8 黄褐色土飼 小粒 3%入る |
| 5.75Y02-2 黑褐色土飼    | 耐性強 繁り難いで葉 草原入る 10T38-6 黄褐色土飼 小粒 3%入る                                   |
| 6.75Y02-2 黑褐色土飼    | 耐性強 繁り難いで葉 10T38-8 黄褐色土飼 小粒 1%入る  |
| 7. 黄花桃             |   |
| 8.75Y03-3 黄褐色土飼    | 耐性弱 繁り難いで葉  |
| 9.75Y02-3 黄褐色土飼    | 耐性弱 繁り難いで葉  |
| 10.75Y02-3 黑褐色土飼   | 耐性弱 繁り難いで葉 10T38-6 黄褐色土飼 小粒 1%入る 10Y38-8 黄褐色土飼 小粒 1%入る 腐化物小粒 1%入る       |
| 2号系管理親 E-E'        |   |
| 1. 9Y02-2 黑褐色土飼    | 耐性中 繁まり難いで葉 草原入る 10Y18-6 黄褐色土飼 小粒 3%入る                                  |
| 2. 7.5Y03-3 黄褐色土飼  | 耐性強 繁り難いで葉 草原入る 10T38-6 黄褐色土飼 小粒 2%入る                                   |
| 3. 7.5Y03-3 黄褐色土飼  | 耐性強 繁り難いで葉 10T38-6 黄褐色土飼 小粒 3%入る  |
| 4. 7.5Y02-3 黑褐色土飼  | 耐性強 繁り難いで葉  |
| 5. 7.5Y02-2 黑褐色土飼  | 耐性強 繁り難いで葉 草原入る 10T38-6 黄褐色土飼 小粒 2%入る                                   |
| 6. 7.5Y02-2 黑褐色土飼  | 耐性強 繁り難いで葉 10Y38-7 黑色土飼 毛性弱 繁り難いで葉 小粒~小粒大粒入る                            |
| 7. 7.5Y03-3 黄褐色土飼  | 耐性強 繁り難いで葉 10T38-6 黄褐色土飼 小粒 2%入る  |
| 8. 7.5Y03-3 黄褐色土飼  | 耐性強 繁り難いで葉  |
| 9. 7.5Y02-2 黑褐色土飼  | 耐性強 繁り難いで葉  |
| 10. 7.5Y02-2 黑褐色土飼 | 耐性強 繁り難いで葉 草原入る 10Y38-6 黄褐色土飼 小粒 2%入る                                   |
| 11. 黄花桃            |   |
| 12. 10Y02-2 黑褐色土飼  | 耐性弱 繁り難いで葉 草原入る 10Y38-6 ~8 黄褐色土飼 小粒 3%入る                                |



### 第13図 2号竪穴住居跡出土遺物(1)